

二〇二二年(令和三年)三月

# 東京阿部家資料

文書編(11)

福山市教育委員会

目次

凡例

『上方様見出』について

正俊・正宣 . . . . . 1

正勝 . . . . . 1

正次 . . . . . 3

重次 . . . . . 8

定高 . . . . . 10

正邦 . . . . . 13

正福 . . . . . 15

正右 . . . . . 24

正倫 . . . . . 29

正精 . . . . . 31

正寧 . . . . . 43

正弘 . . . . . 48

正教 . . . . . 64

正方 . . . . . 66

挟み込み . . . . . 69

## 凡 例

- 一 本書は、「東京阿部家資料」文書編(11)として、旧福山藩主阿部家(東京阿部家)から福山市に寄贈いただいた資料の内、『上方様 見出』を収録した。
- 一 文書の収録については、原則として原文の形に添うように努めたが、内容に正確を期し、読者の便を因るため、次のように編集した。
- 1 漢字の字体については、原則として新字体を用いた。名前と院号については原則原文のままにした。異字・略字はつとめて通行の表記に統一したが、そのまま用いたものもある。
- 2 旧仮名遣い、および「々(より)」は、原文のまま記した。
- 3 平出・欠字は省略した。
- 4 誤字は原則原文のまま記し、行間に括弧で適切な文字を記した。また、他資料と比較して月日が異なる場合も原本を尊重してそのまま収録し、本資料が書き間違えと考えられる部分については行間に括弧で正しいと思われる字を示した。
- 7 欠損している文字は■、判読不能の文字は□とし、疑念が残る文字は行間に(カ)と記した。
- 8 読者にわかりやすくするため、系図の線上に適宜名前を入れた括弧を付けた。
- 9 参考資料として、東京阿部家資料の中から系図二点を巻末に載せた。
- 一 本書は、資料集という性格上、現代の人権感覚からすれば不適切な用語や表現もそのまま収録した。
- 一 本書の解説は、つぎの東京阿部家文書解説グループのメンバーに協力いただいた。  
小林浩二 佐藤恭子 藤井和枝 藤井直子  
一 本書の編集は、福山市経済環境局 文化観光振興部 文化振興課 まなびの館ローズコム 歴史資料室の 鐘尾光世・柏 紀雄・桑田直美があたった。

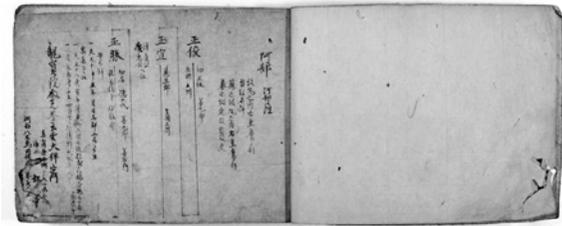
『上方様 見出』について



『上方様 見出』は、徳川家康の側近くに仕えて領知を得、譜代大名として後に福山藩主となった阿部家代々の記事を記した系譜である。

阿部家は正勝を初代とし、十四代正桓のとき廃藩を迎えるが、本資料は正勝の祖父正俊から書き起こされ、文久二年（一八六二年）に綴り直されているため、十三代正方で終わっている。内容は、各人の年譜・院号・墓所・母や妻の出自のほか、多くの系図では「女子」としか記されない娘たちにも名前が附されて年譜・院号とともに載っている。

本資料の翻刻にあたっては、東京阿部家資料の中から「阿部



氏系譜家伝 歴代并親族  
法号書」「阿部氏先祖  
並親族法号」「御系  
図」「歴代法諱」「家  
伝」等を参照した。

なお「上方様」の読み方は、本資料を編集した家臣から見て身分が上の方という意味から察すれば、「うえかた」「うえつかた」「かみかた」「かむつかた」等幾通りか考えられるが、通例どう読むかは不明である。

画像は『上方様 見出』の表紙・見開き・裏表紙と挟み込みの書付（右下）



上方様

見出

福山

用所

阿部

阿部姓

紋丸之内右重鷹ノ羽

替紋石餅

簾之紋丸之内右重鷹ノ羽

幕之紋定紋替紋交

正俊

初正依 善九郎

生国 三州

正宣

甚五郎 生国三州

清康公 廣忠公 へ仕

正勝

幼名 德千代 善九郎 善右工門  
從五位下 伊予守

(正宣)

母不詳

一 天文十辛丑年月日不詳三州二而生家康公へ仕

一 天文十八庚寅年関東御入国之後於武州鳩谷賜五千石

一 慶長五庚子年四月七日於摂州大坂卒六十一 説武州(市原)

龍寶院殿光誉玉雲大禪定門

京小川通西側堯天山佛牙院

浄土(宗) 報(愿) 寺

阿部八右衛門同様 ■ 左 ■

妻今川義元家臣江原三右衛門定次女

惠眼院殿妙光大姉

寛永六己巳年二月廿五日 浅草妙祐山

日蓮 幸龍寺

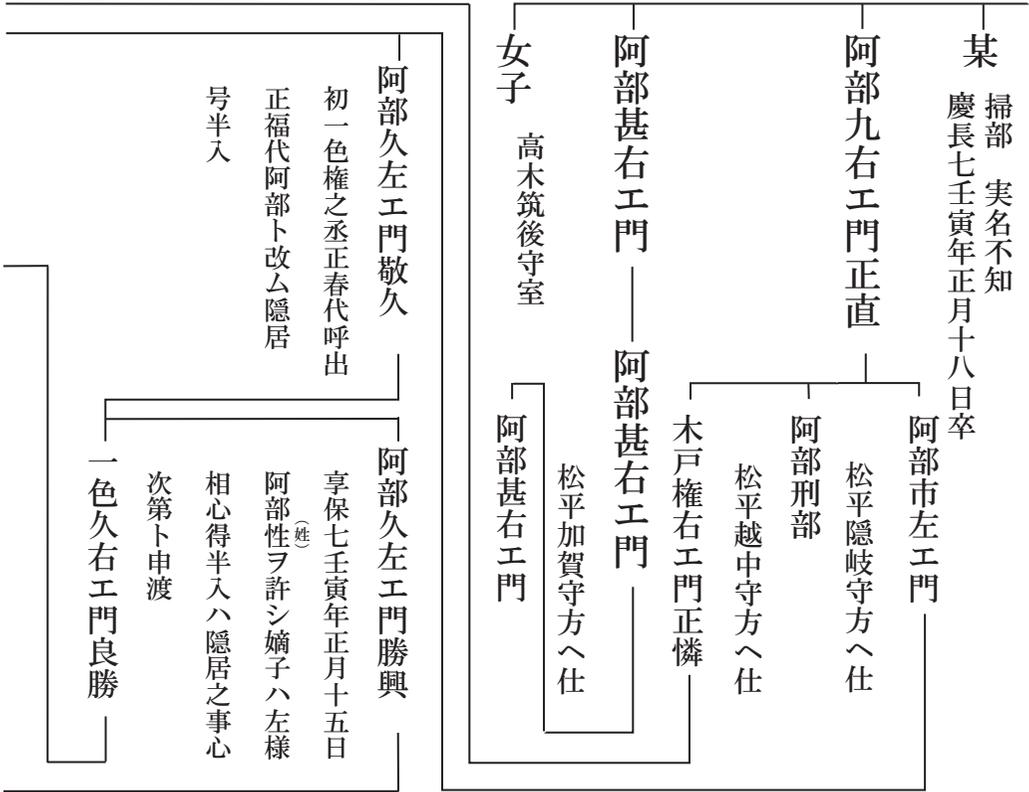
正廣

八右衛門 生国三州 若名善八

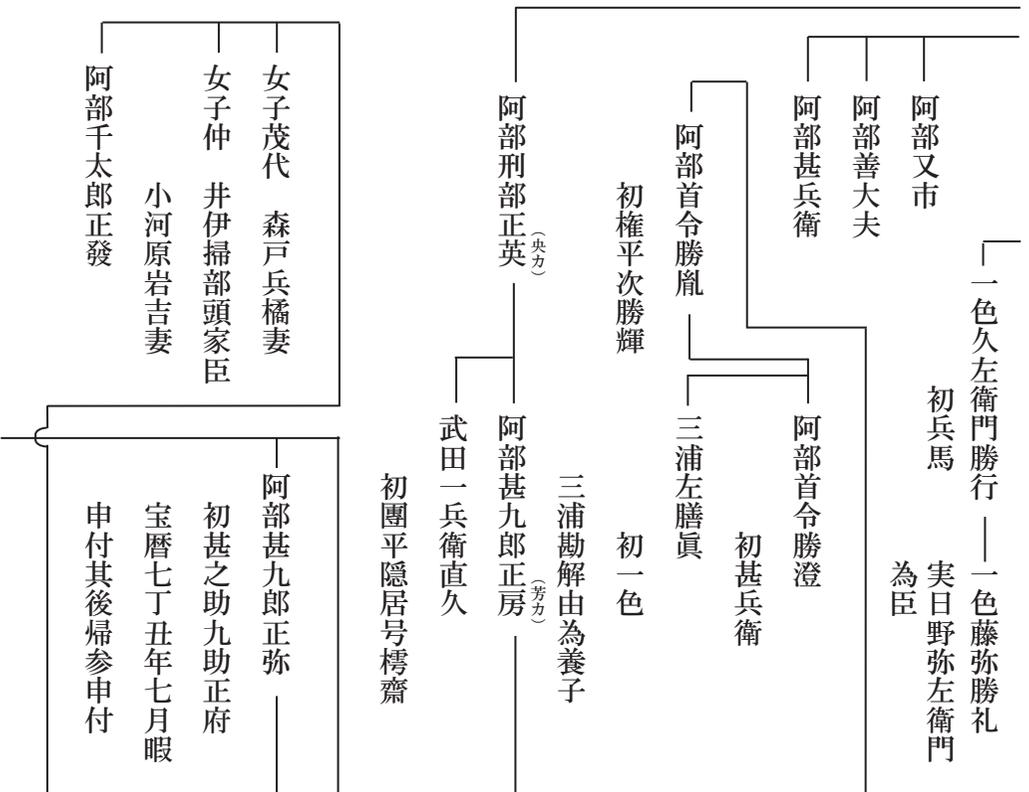
一 天文十九庚戌年生

一 慶長七壬寅年正月十八日卒 葬報恩寺

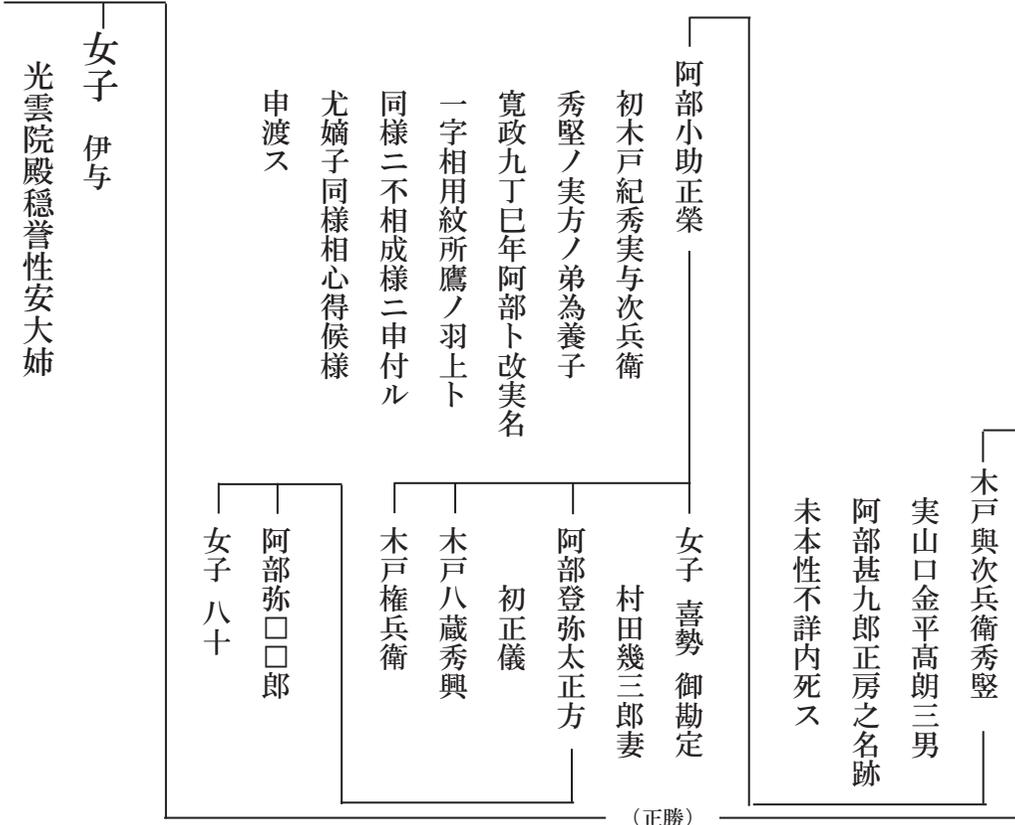
(正勝)



(正勝)



(正勝)



女子 伊与  
光雲院殿穩誉性安大姉

木戸與次兵衛秀堅  
実山口金平高朗三男  
阿部甚九郎正房之名跡  
未本性不詳内死ス

(正勝)

(正勝)

- 寛永八庚未年十月八日卒 深川
- 台徳院様御代マテ御城ニ仕ル 法禪寺
- (ママ) 奇依ニヨツテ葬 法禪寺
- 正次 幼名 善九郎 従四位下
- 備中守
- 母今川義元家臣江原定次女
- 一 永禄十二己巳年月日不詳三州ニテ生家康公へ仕
  - 一 慶長五庚子年四月七日正勝遺跡賜五千石以勤仕為御書院番頭其後於総州一ノ宮加賜五千石合領一万石
  - 一 同十五庚戌年於下野国鹿沼領内加賜五千石
  - 一 同十六辛亥年為大番頭守伏見城三ヶ年
  - 一 元和元乙卯年大坂陣之後於下野国内西方加賜七千石
  - 一 同三丁巳年加賜八千石為上総国大多喜城主領三万石
  - 一 同五己未年改大多喜賜相州小田原城加賜二万石都合領五万石
  - 一 同九癸亥年改小田原賜武州岩築加賜五千石
  - 一 寛永三丙寅年依釣命大坂御城御預依之於摂州領地加賜

(正勝)

三万石都合八万五千石之内以五万石之軍役可守大坂城  
旨

一 正保元甲申年七月叙四品

一 正保四丁亥年十一月十四日撰州大坂御城ニテ卒七十九

英隆院殿前備州大守從四位下運譽豪翁(覺)了大居士

岩付佛眼山英隆院

淨国寺

御位牌所

三緑山廣慶院

増上寺地中

感應寮

妻 佐原作右工門平吉成女

順性院殿了薰桂(目脱佳)大姉

寛永六己巳年十一月廿五日

浅草妙祐山

日蓮

幸龍寺

左馬助 善七郎

正吉

(正次)

(正勝)

母正次同

元龜元庚午年月日不詳 生

青陽院殿泰岳柳安大禪定門

寛永元甲子年正月十一日

西福寺

妻大須賀五郎左衛門女

女子 於鍋 永井右近大夫直勝室

母同前

泉溶院殿盛岸理鏡大姉

慶長十七壬子年七月廿二日

常州笠間

禪

盛岸院

正興 初七之助 善兵衛 從五位下 河内守 八千石分地

母同前

一 天正三乙亥年生 任尾張大納言義直卿

一 寛永十七癸辰年三月廿二日於尾州名護屋死

日觀大禪定門

(正吉)

(正次)

尾州ナコヤ

晴雲山

日蓮 日觀寺

正致

善右工門 河内守 生国尾州清洲  
母 富永丹波女

女子

尾州 家士 石川市正妻

女子

同 家士 瀧川長門守妻

女子

同 家士 山村甚兵衛妻

女子

同 家士 千村平右工門妻

正周

権八郎 善兵衛 生国尾州清洲

(正吉)

(正次)

正澄

初善九郎 從五位下修理亮  
母佐原吉成女 童名徳千代

一 文祿二癸巳年月日不詳武州ニテ生

一 寛永五戊辰年八月四日於武州部屋住ニテ死三十六才

光嚴院殿玉誉江金大禪定門

西福寺

廟所同姓豊後守墓所之内ニ有且丸山屋敷未申ノ方ニ衣

(正次)

類埋有之由

妻加藤肥後守藤原清正女

本淨院殿妙智日温大姉  
(昌九)

寛永四丁卯年八月十九日

武州池上

日連 本門寺

女子

鍋 有馬左工門佐藤原康純妻

母不詳

正保二乙酉年十月廿八日卒

妙禪院殿覺圓日嚴大姉  
(禪九)

池上

本門寺

(正吉)

正能

初正令 幼名徳千代  
母加藤清正女

同姓為豊後守忠秋養子

忠秋

豊後守 從四位下  
母大須賀五郎左衛門康高女

一 慶長十五庚戌年九才仕家光公父正吉遺跡五千石其後

(正次)

有加恩

- 一 寬永十一甲戌年閏七月叙四品
  - 一 同十二乙亥年十一月加賜四千石合一万五千石
  - 一 同十四丁丑年正月十一日加賜一万石於下野国壬生城勤連署加判
  - 一 同十六己卯年移武州忍城加賜一万五千石
  - 一 正保四丁亥年加賜二万石
  - 一 慶安四辛卯年仕家綱公同八月任侍從
  - 一 寬文三癸卯年二月八日加賜二万石合領八万石
  - 一 同十一辛亥年五月廿五日隱居
  - 一 延宝三乙卯年五月三日卒七十四才
- 透玄院殿拾遺前豐州大守隆誉天朗空烟大居士

妻

西福寺

光聚院殿玉岫寶珍大姉

承応二癸巳年九月十五日

泰泉寺

(忠秋)

正能

実修理亮正澄之嫡子也本号正令為忠秋養子

- 一 承応元壬辰年十二月廿八日叙從五位下任播磨守仕大猷院殿家綱公実父修理亮卒去之後祖父正次領知之中別而拜領一万石忠秋雖為養子旧知一万石猶賜領之
  - 一 寬文十一辛亥年五月廿五日忠秋隱居之時繼彼家督即忠秋領知八万石加自分拜知合九万石也
  - 一 延宝元癸丑年十二月廿二日如父可加老中之列旨蒙鈞命叙四品于時病氣依難勤御役御免奉願
  - 一 同五丁巳年七月四日蒙御免家督相統美作守也正能最前部屋領一万石八從次男到末子願讓之処願之通被仰付嚴有院殿薨御之時剃髮而改名養拙
  - 一 貞享二乙丑年四月十三日卒行年五十九
- 建徳院殿前四品播州大守超誉大安養拙大居士

西福寺

妻 牧野内匠頭信成女

長光院殿妙常日仙大姉

貞享二乙丑年六月八日

泰泉寺

(正次)

正武

善七郎 美作守 豊後守  
母牧野内匠頭信成女

一 寛文三癸卯年十二月廿八日叙從五位下任美作守

一 延宝五丁巳年七月四日家督之時領二万石配分子第三

人正武領八万石

一 同八庚申年八月為寺社奉行

一 同九辛酉年三月為加判役改豊後守同四月十八日叙四

品同冬任侍從

一 貞享三寅年正月五日加賜一万石

一 元禄七甲戌年三月五日綱吉公被為成于正武之亭同

四月廿一日加賜一万石都合十万石

一 宝永元甲申年九月十七日卒行年五十六

德巖院殿從四位拾遺豊州大守性誉憲範皓山大居士

西福寺

妻井伊掃部頭直澄女

正方

七三郎 母于正武同  
正能知行高之内分知五千石

一 天和元辛酉年為御小性組番頭任志摩守  
一 同二壬戌年役料御加增千石後為御側衆  
一 享保四己亥年九月卒

正府

三十郎 大学  
実正武二男

正房

長吉郎 兵庫 母于正武同  
正能知行高之内三千石

一 貞享四丁卯年為御小性組番頭任越中守後改遠江守

女子

松平周防守康資妻  
母同前

正重

主税 母同前  
正能知行之内分知二千石

(宝永元乙)  
寛永九甲申年為御小性組番頭任壹岐守

正喬

善七郎 出羽守 豊後守  
母井伊掃部頭直澄女

一 寛文二壬寅年冬任出羽守

一 元禄十二己卯年為寺社奉行賜一万石改飛騨守

(正武)

(正次)

(正武)

一 同十七甲申年家督之時新田五千石配分子弟正晴領十

万石

一 正徳元辛卯年為加判改豊後守

一 享保二丁酉年九月御役御免

一 寛延三庚午年七月廿六日卒

俊徳院殿從四位拾遺豊州大守桂誉鶴算徹直

西福寺

妻

女子 松平肥後守正容妻

女子 松平丹波守光通妻

正晴 讚岐守分知五千石

正府 大学為志摩守正方養子

女子 奥平大膳大夫昌春妻  
母井伊掃部頭直澄女

正秋 善七郎 備前守  
母同前

正保<sup>(徳)</sup>四甲午年十二月十八日任備前守

(正喬)

正乘 主水  
母同前

正末 主馬  
母同前

女子 間部下総守詮吉妻  
実阿部遠江守正房女

正因 帶刀 能登守 飛驒守  
母遠山和泉守友春女 実正喬弟 美濃守長子

重次 幼名作十郎 從五位下 三浦山城守  
後從四位下阿部對馬守

母正澄同

一 慶長三戊戌年月日不詳武州二而生三浦監物重成為養子

領三千石自幼少仕台徳院殿為御近習叙從五位下号三浦

山城守其後養父重成実子生故重次本号称阿部仕大猷院

殿為御近習

一 元和元乙卯年為御小性組番頭

一 寛永十癸戌年三月廿三日可勤御近習之奉公之旨被仰出

以改對馬守

(正次)

一 同十二乙亥年八月九日於下野国鹿沼領内賜知行一万石

其後可為岩築城主之旨被仰出

一 同十五戊寅年十一月七日依仰与松平伊豆守信綱阿部豊

後守忠秋同奉公連署加判拜命之辱

一 同十六己卯年正月元日依鈞命叙從四位下

一 寛永廿年癸未七月於下野国中栃木西方加賜一万石

一 慶安元戊子年秋正次遺領三万石自分拝知六万八千石合

領九万八千石

一 同四辛卯年四月廿日

家光公御他界之時重次殉死于時五十四才

芳松院殿全嚴浄心大居士

東叡山

現龍院

妻 三浦監物重成女

清臺院殿浄誉妙薫大姉

元和七辛酉年四月八日

浅草田島山快樂院誓<sup>(願)</sup>寺地中

(重次)

浄土 長寿院

後妻 松平隱岐守源定勝女 おツル

正壽院殿貞誉光庵秋月大姉

正保二乙酉年閏五月四日

小石川無量山寿経寺

傳通院

実御墓所

浄国寺

正壽院殿ハ水野右衛門大夫忠政之女傳通院殿之御孫也

家康公之御為ニも胤替之御姪女なり

重次公御殉死御供

実彌宗信居士 新居頼母繁行

観溪道秀禪定門 小高隼之助友春

喜津了悦禪定門 山岡主馬実名無之十八才

栄源春窓禪定門 鈴木左五左衛門重盛

女子 お千 内藤豊前守信照室  
母正澄二同

(正次)

法龍院殿月慶了心大禪尼

寛永十癸酉年七月廿三日

小石川

浄土

無量院

女子

成瀬伊豆守之成室

母同前

正久

盛次トモ 甚三郎  
母同前

高巖院殿本誉良覚大禪定門

正保二乙酉年五月十六日

妻加州家士藤堂数馬女  
(運力)

女子

おミヤ 安藤伊賀守重元室  
母同前

実成院殿妙圓日珠大姉

寛文五乙巳年九月廿四日

幸龍寺

(重次)

吉次

左京  
母松平加賀守家士遠藤数馬女

正利

甚三郎  
母家女

左傳次

母同前

女子

母同前

安次

大膳  
母同吉次

右京

母家女

六之助

母同前

甚左衛門

阿部美作守□家士  
母同吉次

定高

千勝 從五位下備中守  
母松平隱岐守源定勝女おツル

一 寛永十二乙亥年月日不詳於武州生

一 慶安四辛卯年八月十四日父之遺跡賜九万八千石仕

家継公

一 同年十二月廿八日叙從五位下任備中守

一 万治二己亥年正月廿三日於武州卒二十五才

普廣院殿前備州大守孝譽寂照閑清大居士

佛眼山英隆院

浄土 浄国寺

妻 松平隱岐守定頼女 お万

光雲院殿秀栄日珠大姉

宝永元甲申年六月二日

谷中慈雲山

瑞輪寺

(重次)

定高公卒去御供

華岳道忠信士 小倉興兵衛政光

正春

長松 三浦吉兵衛利重 從五位下任因幡守  
後改阿部伊予守

母同定高

一 慶安四辛卯年八月十四日父重次依遺言新田領一万六

千石

一 承応二年癸巳十二月廿八日叙從五位下称三浦因幡守

一 万治二年癸亥定高卒去之時息子正盛幼稚二付正盛成

(定高)

長之間定高如願遺跡九万八千石自分之領一万六千石

凡十一万五千石可領之旨被仰付于時称阿部伊予守

一 寛文十一年辛亥九月下旬正盛漸成長仍之奉願讓与定

高遺跡自分拜領旧知一万六千石之旨訴同年十二月十

九日如願定高遺跡九万九千六十石余賜正盛于時十四

才正春旧知一万六千石

一 元禄十五壬午年九月七日蒙鈞命改采邑総州大多喜移

三州刈屋

■ 宝永六己丑年四月廿五日隱居讓家督嫡子正鎮

一 正徳六丙申年六月八日卒

芳園院殿覺山了真大居士

淺草

天台

東光院

妻烏丸大納言資吉卿女

女子

靄 松平遠江守忠俱室

一 寛永十三丙子年生

一 寛文八戊申年二月二日死

(重次)

常照院殿心普清空光雲大姉

女子 福 松平対馬守源近陣室

入輿之節長柄百本被遣之  
寛文七丁未年十一月二日

真善院殿妙有日行大姉

雑司ヶ谷

本浄寺

(正春)

女子 虎 朝岡出羽守実名不詳妻

実三浦左近義勝女

正保三丙戌年三月廿三日死相州小田原妙経寺へ葬

女子 実堀市正通周女  
朝岡出羽守後妻

正鎮ヤシ 正良 梯千代 民部  
母烏丸大納言資吉女

一 宝永六己丑年四月廿五日家督

一 同七庚寅年正月廿三日蒙鈞命改采地三州刈谷賜上総

国佐貫

一 正徳三癸巳年冬叙従五位下任因幡守

一 宝暦元辛未年十一月四日卒

(定高)

了義院殿即峯玄性大居士

浅草

東光院

正興 実正襲四男為婿養子  
増五郎

増五郎

女子 保科兵部少輔正祥妻  
母同正鎮

母同正鎮

正長 内記 周防守  
母同前

母同前

一 正鎮知行之内分二千石

一 享保二丙午年四月十八日中奥御小性

一 同十七壬子年十二月十六日叙従五位下任周防守

一 延享三丙寅年三月十五日御小性組番頭

某 六丸 早世

母松平隠岐守定頼女方

明暦三丁酉年六月廿一日

覺證院殿智現大童子

谷中瑞輪寺地中

日蓮

大乘院

正邦

幼名作十郎 從四位下对馬守  
備中守

母松平隱岐守源定頼女

一 万治元戊戌年四月十九日武州二而生

一 寛文十<sup>(庚)</sup>戌年秋初而奉見家継公

一 同十一辛亥年十二月十九日正春如願父定高遺領九万

九千六十石ヲ如先規賜

一 同年十二月廿八日於雁之間詰衆座上可奉拜台顏旨即叙

從五位下任对馬守

綱吉公御代

一 延宝九辛酉年二月廿八日改岩築之采邑而賜丹後国宮津

城而如旧知頂戴九万九千六十石三斗九升三合之御書出

右就取替金子一万五千兩拝借之

一 元禄十丁丑年二月十一日改宮津之采地而移下野国宇都

宮城加賜九百三十九石六斗七合為高十万石外二万六千

四百八十一石三斗八升九合五勺新田御添地右就取替金

子一万兩拝借之

一 元禄十三庚辰年十二月廿一日叙四品

家宣公御代

一 宝永七庚寅年閏八月十五日蒙台命改下野国宇津宮而賜

備後国福山城

一 正徳元辛卯年五月十四日改備中守

一 正徳五乙未年正月廿七日武州二而卒五十八

長生院殿四品備州大守尋譽耀海踞岸大居士

浅草東光院良雲院

西福寺

妻 松平土佐守藤原豊昌女菊

延宝六戊午年十二月十三日婚姻整

延宝九年辛酉年九月二日死

寶境院殿秋岸日嬉大姉

谷中

日蓮

瑞輪寺

後妻 春日左衛門行脩姉ソノ

享保十二丁未年六月廿四日

貞松院殿照普明阿惠光大姉

西福寺

実母

元禄六癸酉年正月十五日

隆仙院殿性普梅岳宗薰大禪定尼

西福寺

(正邦)

一 元禄五壬申年六月十日

晴岸院殿妙月日永大姉

榊原式部大輔正倫へ縁組入輿前死

瑞輪寺

女子 普利 早世 四才 貞松院殿腹

一 延宝八庚申年生

一 天和三癸亥年二月廿五日

瑤閣院殿香林安貞大童女

西福寺

女子 智久 早世 九才 右二同

一 貞享三丙寅年五月生

一 元禄七甲戌年正月廿八日

光壽院殿明普天映大童女

西福寺

某 萬太郎 長十郎 早世 九才

貞松院殿腹 萬太郎出生二付後妻ニナル

一 元禄元戊辰年三月十二日武州ニ而生

一 同九丙子年四月二日部屋住ニ而歿

某 千之助 早世五才 貞松院殿腹

一 延宝七己未年生

一 天和三癸亥年十一月二日

皓岑院殿月寒了智大童子

西福寺

女子 染 早世 十三才 宝境院殿腹

一 延宝九辛酉年五月九日生

陽雲院殿智玄了慧大童子

浅草靈龜山

法福寺

某

正羽マキ 鍊蔵 早世九才 柔光院殿腹

母家女中村氏

一 元禄十二己卯年正月四日武州二而生

一 宝永四丁亥年九月十二日部屋住二而死

騰霄院殿凌雲卓孺大童子

西福寺

(正邦)

正福

富之助 從四位下伊勢守  
初正岑 正縁 正誉 正襲 正意

母中村氏

一 元禄十三庚辰年六月六日武州二而生

一 正徳三癸巳年五月廿八日初而奉見家継公

一 同四甲午年十二月十八日叙從五位任伊勢守

一 同五乙亥年三月十三日父正邦遺跡十方石無相違下賜并

父願領知之内分五千俵以与千次男百之助如願内證而可

配分之旨被仰出

一 延享二乙丑年十一月十三日為大坂御城代叙四品右就役

義同年十二月朔日金一万兩拝借之

一 同年十二月廿三日於大坂五万石之以人数可勤旨老中被

申渡

一 寛延元戊辰年十一月十一日隱居家督願小笠原縫殿助ヲ

以御用番本多伯耆守正珍へ出ヌ同月十八日老中連名就

奉書同十九日名代阿部因幡守正鎮同姓伊予守正右殿へ

城芙蓉之間ヲいて老中列座就病氣願之通隱居伊予守へ

家督被下置雁之間詰被仰付

一 明和六己丑年十月十日卒七十

徳輪院殿四品勢州大守碩誉祐全寿山大居士

西福寺

妻 松平隱岐守定直女

実京極仁十郎姉

一 享保五庚子年九月十四日

慧光院殿妙達日源大姉

(正邦)

日蓮

瑞輪寺

后妻 松平大隅守繼豊妹

実鳥居右京亮忠利女

宝曆九己卯年十二月廿七日

光闡院殿真誉教普潤大姉

西福寺

実母

宝曆九己卯年八月十日

柔光院殿輓誉耕阿明性法忍大姉

西福寺

妾

寛延三庚午年十月廿日

龔寿院殿覺誉祐阿大姉

西福寺

妾

寛政六甲年十二月十四日

徳昌院殿輪誉祐寿栄大姉

(正福)

西福寺

女子 陀意 早世八才 貞松院殿腹

一 元禄十一戊寅年九月廿一日生

一 宝永二乙酉年六月廿八日死

芳嚴院殿香林栄薫大童女

傳通院

女子 三 早世 柔光院殿腹

一 元禄十五壬午年十月廿九日生

一 元禄十六癸未年八月廿一日死

葉秋院殿照月相幻露光大童女

小石川福田山

浄土 葉根院

大寿寺

女子 阿根 土井大炊頭利実室

貞松院殿腹

一 元禄七甲戌年六月廿九日生

一 延享四丁卯年十一月廿日死

長光院殿浄誉明相樹清大姉

浅草

浄土

誓願寺

女子 緑 丹羽左京大夫尹重室

信解院殿腹

一 元禄九丙子年四月生

一 寛保元辛酉年十一月廿三日死四十六才

本光院殿義天妙證日栄大姉

本所

日蓮

法恩寺

女子 お丈 早世 八才

貞松院殿腹

女子 清 井伊兵部少輔直矩室

柔光院殿腹

一 元禄十二己卯年十二月十一日生

一 延享四丁卯年八月二日死

照覚院殿證蓮社明誉光阿智栄大姉

(正福)

西福寺

正容<sup>カタ</sup> 百之助 隼人 遊山

高内五千俵内證分  
柔光院殿腹

一 宝永三丙戌年九月八日生

一 安永三甲午年六月六日死

慧海院殿廣誉普空遊山大居士

西福寺

女子 幾 六郷伊賀守政長室

母家女

一 正徳四甲午年正月七日生

一 天明二壬寅年十一月廿九日死

喜光院殿歛誉心阿貞信大姉

浅草

万隆寺

女子 知久 貞松院殿腹

(正容)

- 一 宝永元甲申年四月十六日生
  - 一 元禄七甲戌年正月廿八日死
- 光寿院殿明誉天映大童女

西福寺

女子 名不詳  
母家女 早世二才

正封<sup>ミ子</sup> 阿部主膳

童名隼之丞 正摸部屋住二而卒  
宝曆八戊寅年十月十二日二十六才  
純孝院殿真敬道意大居士

西福寺

正依 阿部鞞負 童名英次郎

- 一 寛政三亥年九月十七日浅草御門番被仰付
- 一 同六寅年来春より乘輿之事
- 一 同九巳年九月三日安楽心院様御上京御供被仰付

(正福)

- 一 享和二戌年六月六日唯乘院院様御新葬御法事中勤番被仰付

一 文化三寅年十月六日数寄屋橋御門番戸田鞞負代被仰付

一 同四卯年六月十一日隠居隼人へ家督願書出ス同年七月廿九日願之通隠居家督被仰付同十一月廿三日右御礼申上

一 同六巳年十月十日死去

妻牧野内膳正純女ソヨ

后妻松平兵庫頭直行叔母お高離縁

実母

寛政十一未年正月十四日死去

知庭院殿誓誓深海大姉

阿部釜次郎 早世二才

母牧野内膳正女

女子 お悦

正倫公為養女

〔(正依)-

正利

阿部隼人 童名鍋吉 長門守

- 一 寛政元酉年十一月廿五月初而御目見
- 一 同三亥年四月十二日縁組願書出同年五月十一日願濟
- 一 同年八月廿三日婚姻整
- 一 寛政七卯年内室死去
- 一 文化四卯年七月廿九日家督同十一月廿三日右御礼
- 一 同五辰年五月七日当秋駿府二町番被仰付
- 一 同年九月廿一日駿府へ出立
- 一 同六巳年九月廿日駿府町番所交代相濟帰
- 一 文化八未年二月五日聖堂学問所世話役被仰付
- 一 同九申年二月十二日中川御番被仰付
- 一 同年十一月八日定火消岡田将監代被仰付
- 一 同年十二月十六日布衣被仰付
- 一 同十二亥年十月二日居屋敷願之通場所取立可願旨被仰渡
- 一 同十三子年三月廿日從弟女御書院番室賀山城守組与

(正福)

- 頭高木左京妻死去
- 一 同十四丑年六月廿八日西丸御小性組水野伯耆守組松平頼母下谷七軒丁屋敷与追々拝借地出来之上相對替之積
- 一 同年十二月廿五日来寅年方乘輿断状差出又
- 一 文政元寅年五月十九日百人組之頭久貝忠左衛門跡被仰付
- 一 文政四巳年九月廿日西丸御小性組番頭松平内匠頭跡被仰付
- 一 同年十二月十六日緒大夫被仰付長門守卜改
- 一 同八酉年四月十二日病氣二付願之通御役御免寄合被仰付
- 一 同年八月朔日数奇屋橋御門番被仰付
- 一 同九戌年十月廿三日丸山屋敷内江引移
- 一 同十一子年八月二日数奇屋橋御門番御免被仰付
- 一 同十三寅年八月二日浜大手御門番被仰付
- 一 天保三辰年七月晦日願之通隠居被仰付鞞負江家督無

相違被下置

一 同十一子年六月廿日卒

常泰院殿

浅草

西福寺

妻松平図書勝政妹宇

一 寛政七卯年四月十七日卒

普照院殿

浅草

西福寺

后妻花房大膳姉ヤツ

正溥

阿部鍋吉 後鞞負

母松平図書勝政女

一 文化三寅年十一月十五日半髮袖留

一 同五辰年九月十五日前髮執

一 同七年十二月廿三日縁女戸田麟平養母方叔母江今

日結納遣即日婚姻整

(正利)

(正福)

一 同十酉年閏十一月七日妻出産女子出生

一 同十三子年五月廿五日酒井大内記女再縁組願書出又

同六月廿九日願濟

一 同年十一月廿五日結納遣即日婚姻整

一 同十四丑年十月廿三日御目見願書差出同十二月廿一

日初而御目見申上

一 文政四巳年十二月十六日鞞負卜改

一 同十三寅年八月十三日五節句月次出仕願之通被仰付

一 天保三辰年七月晦日家督無相違被下置

一 同四巳年十月廿四日馬場曲輪西御番所大森刑部代被

仰付

一 同五年二月十日雉子橋御門番戸田大学代被仰付

一 同年十一月十六日火事場見廻り酒井八十之丞代被

仰付

一 同六未年七月廿八日定火消役長谷川図書跡被仰付

一 同年閏七月四日麴町御役屋敷江引移

一 同年十二月十六日布衣被仰付

(正利)

- 一 同九戌年閏四月十二日御先手河内采女正跡被仰付
  - 一 同十二丑年六月廿日定火消役大森勇之助代被仰付
  - 同廿六日御役屋敷江引移
  - 一 同十三寅年三月廿二日来四月日光山御宮御参詣之節  
御供被仰付
  - 一 同十四卯年四月四日光御供二付御目見蒙上意
  - 一 同年四月十二日光表江出立
  - 一 弘化元辰年九月十日新御番頭被仰付
  - 一 同年九月十四日丸山屋敷内江引移
  - 一 同年十月廿六日火消御役中御本丸炎上之節骨折二付  
羅紗四間時服三拝領之
  - 一 同三年閏五月十一日病氣二付惣領玖太郎跡目願差  
出同日卒
- 高勝院殿最譽明了徹心大居士
- 浅草
- 西福寺
- 妻戸田麟平養母方叔母 稻

(正溥)

(正福)

- 一 文化十二亥年十二月廿日死去
- 浄臺院殿
- 浅草
- 西福寺
- 后妻酒井大内記女 喜室
- 最勝院殿
- 某 榎原延三郎 后角右衛門
- 母家女 家臣内藤角右衛門為養子
- 一 寛政二戌年正月九日出生
  - 一 文化七午年十月廿八日福山表江出立
  - 一 安政六未年十一月晦日死去
- 某 江原茂三郎
- 母家女 出生年月不詳
- 一 寛政六寅年十月廿五日死去
- 女子 陸
- 母家女 出生年月不詳
- 一 寛政九巳年二月十日死去

(正利)

女子 鑑

母家女

一 文政六未年十月十二日出生

一 文政九戌年正月十日死去

女子 祥 后仙石弥三郎室

母家女

一 文政九戌年十二月十九日出生

一 天保七申年十二月廿一日米津小大夫江養女差遣ス

同十三寅年五月十九日離縁

一 同十五辰年四月廿九日婚姻整

一 弘化三年年十二月二日死去

某 鋼次郎 后段之助 角右衛門

母家女 家臣内藤角右衛門為養子

一 文政十一子年七月廿一日出生

一 天保十四卯年八月八日福山表江出立

某 銚五郎

母家女

(正溥)

(正福)

一 天保三辰年正月晦日出生

一 嘉永四亥年七月十八日死去

某 英次郎

母戸田麟平女

一 文化九申年三月廿八日出生

一 天保四巳年三月十九日婚姻整

一 同年八月五日死去

恭學院殿

浅草

西福寺

妻堀出雲守妹 州

一 天保六未年十一月十二日里方江戻ス

女子 鈔 大久保四郎太郎室

母前二同

一 文化十酉年閏十一月七日出生

一 文政十二丑年十二月十三日縁組願濟

(正溥)

- 一 同年十二月廿五日婚姻整
  - 一 弘化五申年五月晦日死去
- 女子 弥世 后前田右近室

母前二同

- 一 文化十二亥年三月三日出生
- 一 文政六未年三月廿日山岡郡之丞江縁組願相濟
- 一 天保四巳年五月七日離縁

- 一 同九戌年十二月廿二日婚姻整
- 女子

母酒井大内記女

- 一 文政四巳年三月十七日出生
- 一 同年同月十九日死去

女子 富

母前二同

- 一 文政七申年十二月十五日出生
- 一 同八酉年正月八日死去

(正福)

正純

玖太郎 隼人  
母家女

- 一 天保五午年五月十八日出生
- 一 弘化三年八月四日亡父鞞負跡式無相違被下置
- 一 同年八月七日家督之御礼申上度願書出ス
- 一 同年九月五日家督之御礼病氣二付以使申上
- 一 弘化四未年十一月廿四日前髮執度旨願之通被仰付同廿八日前髮執
- 一 安政二卯年十一月廿八日鈴木主殿女 鉄縁組願差出十二月十四日願之通被仰付同廿三日婚姻整
- 一 安政三辰年四月廿五月初而御目見
- 一 同年四月廿七日五節旬月次出仕願之通被仰付
- 一 同年五月廿一日名隼人与改
- 一 同四巳年五月廿六日当秋駿府之加番被仰付
- 一 同年九月朔日駿府江之御暇被仰出同廿一日出立
- 一 同年九月廿四日駿府江着翌廿五日交代相濟
- 一 同五年九月十六日於駿府表病氣太切二付養子直之丞江跡目願相番方江差出

同十七日於彼地死去

大信院殿禮譽仁孝義道大居士

淺草

西福寺

(正純)

妻鈴木主殿女鉄

一 安政六未年六月七日離縁

正學タカ

直之丞

前田右近男 為正純養子

一 弘化二巳年五月九日出生

一 安政五年十二月六日養父願置之通跡目無相違被下置

一 同年十二月廿一日家督之御礼申上

一 同六未年十一月廿八日前髮執

(正福)

正右

富之助 從四位下伊予守  
初正岑

母松平薩摩守源吉貴女

一 享保九甲辰年十一月廿九日武州二而生

一 元文三戊午年二月廿八日初而奉見吉宗公

一 同年十二月十八日叙從五位下任伊予守

一 延享二乙丑年十月朔日依御代替奉見家重公

一 寬延元戊辰年十一月十九日家督

一 宝曆二壬申年四月廿三日御奏者番被仰付

一 同三癸酉年九月二日鶴岡八幡宮御名代被仰付

一 同六丙子年五月七日寺社奉行加役被仰付

一 宝曆十庚辰年五月廿一日依御代替奉見家治公

一 同年九月二日將軍宣下覽箱取次勤之

一 同年十二月三日所司代被仰付叙四位下任侍從

一 同十一辛巳年正月十五日京都御暇

一 同年十月廿一日依御代替領知之御判物被下之

一 同十二壬午年八月廿二日桃園院御新葬供奉勤之

一 同年十一月十一日御遺物被下之同月十四日若君様御七

夜為御祝義時服五以宿次拝領之

一 同十三癸辰年七月十六日清涼殿御普請出来依テ從禁裏

拝領物有之

一 同十四甲申年六月以後明和元年正月廿八日朝鮮信使来

(正福)

聘於客館本國寺与三使面謁

明和元

- 一 同年二月四日為御即位御祝義真御太刀從禁裏拝領之
- 一 同年四月十八日此度依被為召參府參内之処禁裏女院親王准后ヨリ拝領物有之同月十九日京都出立同廿八日江戸到着

一 同年五月朔日老中連判之列被仰付若君様へ被為附

一 同年七月廿八日阿部飛驒守正允へ為所司代引渡上京二付御暇拝領物有之

一 同年八月九日江戸出立同月廿二日京都到着同月廿八日引渡相濟依帰府御暇被下參内從禁裏女院親王准后拝領物有之同廿九日京都出立九月十八日江戸帰着

一 同年九月廿二日当冬若君様御髮置御用掛被仰付

一 同年十一月四日右御用依相勤時服十拝領之同年同月十九日御本丸兼帶被仰付

一 明和二乙酉年十二月廿二日御本丸可相勤旨被仰付

一 同四丁亥年四月廿六日当六月惇信院様七回御忌御法事

(正右)

御用被仰付

一 同年六月十三日右御用依相勤時服十拝領之同月十四日

嫡豊前守正固卒依之同十六日以御小納戸頭取口氣御尋被仰出從御台様以老女中奉文御尋從大納言様以松平右

近將監武元奉書御尋有之

一 同六己丑年四月廿一日辰年日光山御社參之節御留守被仰付嫡備中守正倫御供且於御旅中日光山御奏者番之役

可勤旨被仰付

一 同年七月八日以御小納戸頭取病氣御尋味噌漬小鯛一抱被下之從大納言様以板倉佐渡守勝清奉書御尋有之

一 明和六己丑年七月二日卒四十六才

西閣院殿從四位前豫州大守櫻誉託方練契大居士

西福寺

妻松平讚岐守頼豊女未婚儀整二死

后妻丹羽左京大夫高寛女

宝曆十二壬午年七月廿七日

諒岸院殿真窓了貞大姉

(正福)

忠雄

童名伊之助 初佐原織部正興知行  
三百石遣之從五位下酒井下総守  
酒井越中守忠丘為養子高五千五百石

母家女照瑤院殿

芝 泉岳寺  
禪

一 享保六辛丑年七月廿六日於福山生妾腹故為次男

一 元文六年寛保卜改元酉年三月廿六日賀養子願書出同年

四月五日願濟同四月廿六日御用番本多中務大輔へ致出

府段届ル同五月六日福山出立同月廿八日江戸到着右二

付御用番松平左近將監へ着之段家来届出ス六月五日養

家へ引移

一 同年九月廿日御目見申上

宝曆十四甲申年三月十九日卒四十四才

玉相院殿周界徹照大居士

牛込

宝泉寺

(正右)

某 縫殿助

母家女

一 享保十三戊申年十月十八日於福山生十一才まで福山二

住居ス

一 元文三戊午年出家シテ為大和国箸尾教行寺住職

一 宝曆七丁丑年四月廿二日死

發心院殿釋眞藝

田恒

初正也 滿次郎 右近 右京 米津小太夫  
大和守 淡路守 從五位下撰津守

米津周防守田岡為養子高四千石

母福地氏 龔寿院殿

一 享保十六辛亥年十二月三日生

一 寛保四甲子年四月四日半髮袖留不詳

一 延享二乙丑年九月十九日前髮執

一 寛延四辛未年十月十八日願書出ス同十二月廿二日願之

通決

一 宝曆二壬申年四月三日養家へ引移即日婚姻整

(正福)

一 天明三癸卯年二月十四日卒五十三才

浄刹院殿從五位下撰州刺史證譽清心源底大居士

深川

浄土 本誓寺

正與(興力)

初正之 增五郎 從五位下山城守  
母田恒二同

為阿部因幡守正鎮養子

一 享保二十乙卯年三月廿六日生

一 延享四丁卯年正月廿二日賀養子願書出ス

同月廿六日願濟十二月二日引移

一 宝曆十四甲申年三月十一日死二十三才

浄慧院殿從五位下前因州刺史覺峯理玄大居士

浅草

東光院

女子 銀 龔寿院殿腹

一 元文二丁巳年六月廿五日生

一 同五庚申年十月十一日死

(正右)

林霜院殿瓊樹嫺章大童女

西福寺

定振アツ

甲之助 后安藤主馬  
母家女 后他へ嫁

一 元文四己未生家臣安藤大藏定成為養子

一 安永二癸巳年六月廿八日死

信暉院殿忠譽義山忍證居士

麴町

浄土 栖岸院

安藤小膳

安藤内蔵

女子 梅 六郷兵庫頭政林妻

一 寛保元辛酉年十二月廿八日生母家女

一 文化二乙丑年八月三日死

青巖院殿貞室良松大姉

浅草

万隆寺

(正福)

女子 光 龔寿院殿腹

一 享二壬戌年三月八日生  
(寛保)

一 延享四丁卯年二月四日死

柯香院殿麗娥稚梅大童女

西福寺

某 又吉 則丸

一 享保十七壬子年生 為下谷教證寺真寛養子

一 同二十乙卯年正月二日死同寺へ葬

智暁院殿釋覺慶

下谷池ノ端高承山

浄土真

教證寺

女子 千美

諏訪安芸守忠厚妻離別  
后柳沢伊勢守信有妻

一 延享三丙寅年正月十六日生

母家女 三浦氏徳昌院殿

一 寛政十一己未年三月十二日死

泰聖院殿安岳祐心大姉

(正右)

市谷

月桂寺

正至 初江原斧三郎 早世

母右二同

一 寛延元戊辰年閏十月廿二日生

一 宝曆七丁丑年八月三日死十才

聞名院殿欲生帰往大童子

西福寺

正表ノリ

丑之助 富之助  
母家女 中島氏 法幸院殿

一 元文四己未年七月十九日生

一 宝曆五乙亥年八月十日部屋住二而死

果還院殿樂誉深達慧極大居士

西福寺

正固 百之助 從五位下豊前守

母丹羽左京太夫高寛女 実母同正表

一 寛保二壬戌年六月十六日生

(正右)

- 一 宝曆七丁丑年七月廿八日初而奉見家重公
  - 一 同年十二月十八日叙從五位下任豊前守
  - 一 同十庚辰年十二月十五日雁之間席被仰付
  - 一 明和四丁亥年六月十四日部屋住二而卒廿六才
- 顯示院殿峯譽登嚴松道大居士

西福寺

妻堀田相模守紀正女未婚儀整正固卒

正倫

運之助 主計 備中守  
從四位下伊勢守

養母同正固 実母同前

- 一 延享二丙丑年二月九日武州二而生
- 一 明和四丁亥年七月八日嫡子願同十一日如願濟
- 一 同年閏九月朔日初而奉見家治公
- 一 同年同月十五日雁之間席被仰付
- 一 同年十二月十六日叙從五位下任備中守
- 一 同六丑年八月廿九日家督雁之間詰被仰付
- 一 同八卯年十一月廿三日婚姻整十二月一日御礼

同九辰年十月朔日初而在所江之御暇被仰出

安永三甲午年二月十一日御奏者番被仰付

同四乙未年正月七日早参府願同年五月二日来申年日光

山御社参御供被仰付同五丙申年四月相勤ル

同六丁酉年九月十五日寺社奉行加役見習被仰付

同八亥年四月廿三日寺社奉行被仰付

天明七未年三月七日加判之列被仰付十五日御礼四月九

日西丸へ引移同未六月廿六日心觀院様御法事惣奉行被

仰付

同八申年正月廿一日引込二月十三日御免願書出同十六

日御差留二月廿九日如願御役御免四月十九日丸山へ移

十六日西丸下屋敷松伊豆守へ引渡五月廿二日小川丁へ

引移

天明八未年<sup>甲</sup>十二月四日桜田方防櫛原式部少輔代被仰付

寛政元酉年十月廿五日大川浚御手伝被仰付

同二戌年五月二日御用済

寛政二戌年九月六日出勤同十五日病後之御礼同十月一

- 一 日在所へ之御暇同十六日出立十一月六日在着十二月一日在着之御礼
- 一 寛政三亥年正月十九日早参府願三月九日着四月九日月代願出六月朔日防礼済
- 一 同年六月六日出勤同十三日参勤之御礼
- 一 同年六月十六日吹上上覽所前詰被仰付
- 一 同五丑年九月朔日紅葉山火之番土屋但馬守代り被仰付
- 一 同六亥年五月十七日大手方防被仰付
- 一 同七卯年三月廿三日(堀)川宰相殿上野参詣二付固メ被仰付
- 一 同九巳年六月十四日大手御門番被仰付松平下総守代り
- 一 同十一未年六月十四日大手御門番奥平太膳大夫代被仰付
- 一 享和元酉年六月十四日大手御門番酒井修理太夫代り被仰付
- 一 同三亥年十月六日隠居丸山へ引移
- 一 文化二乙丑年八月廿一日卒六十一才

(正倫)

熙徳院殿從四位下前勢州大守勇誉哲心義山大居士

西福寺

棺名

熙徳院殿勇誉哲心義山大居士之墓也

阿部姓阿部氏諱正倫字子範備後福山城主從四位下伊

勢守延享二年乙丑二月九日生文化二年乙丑八月廿一

日卒

妻松平美濃守伊信女 方マテ

明和七庚寅年八月廿五日死十八才

寶池院殿漣誉実相妙音大姉

西福寺

后妻津輕越中守信寧女 比佐

一 宝曆五亥年八月十五日生

一 文化十一甲戌年二月廿一日卒

靈臺院殿信誉自然現成大姉

西福寺

棺名

靈臺院殿信譽自然現成大姉之墓也

津輕越中守藤原信寧女諱比佐

阿部伊勢守正倫■宝曆五年乙亥八月十五日生文化十

一年甲戌二月廿一日卒

実母

安永五丙申年九月廿七日

法幸院殿乘譽本誓入眞大姉

西福寺

某 母松平美濃守伊信女

明和七庚寅年八月十一日死流産

泡善院殿夢覺得眞善童子

法林院

女子

定 初多子 阿部豊後守正識室離別后土屋へ嫁  
母津輕越中守信寧女実妾腹

一 明和八辛卯年二月廿二日生

阿部家縁組候処不嫁シテ離縁后土屋但馬守英直妻

一 寛政三辛亥年七月二日死二十一才

(正倫)

圓光院殿覺源智證大姉

浅草

海禪寺

女子 母家女

安永元壬辰年五月四日生六日卒

常敬院殿膽譽仰顔善童子

法林院

某 邦吉 早世 妾腹

安永二癸巳年九月廿四日生同年十月廿三日死

洗心院殿甘浄露水善童子

法林院

正精

運之助 從五位下 備中守 対馬守  
主計頭 備中守

母津輕越中守信寧女

一 安永三甲午年十二月廿四日於武州生

一 天明五年十二月縁組願濟寛政四子年閏二月廿八日婚姻

整

(正倫)

- 一 天明七未年十月朔日初而奉見家齊公
- 一 同八申年十二月十六日叙從五位下任備中守同廿三日御  
礼
- 一 同年九月十六日袖留同十八日月次登城之義伺濟
- 一 寛政元酉年二月<sup>(十八九)</sup>日有馬兵部少輔宅二て口宣頂戴ス
- 一 同年四月十六日前髮執
- 一 同二戌年十一月六日御拳之料理戴
- 一 同五丑年三月二日対馬守卜改
- 一 同年八月廿五日主計頭卜改
- 一 同十一未年正月廿四日鳥御料理戴
- 一 同年九月廿八日再縁組願十一月十日戸田采女正於宅濟
- 一 同年十二月十八日婚姻整
- 一 享和三亥年十月六日家督雁之間席被仰付
- 一 同四子年正月十日上野御成御跡固相勤
- 一 同年五月十七日紅葉山御鏡餅御用勤
- 一 文化元子年三月二日公家衆御能二付御白書院御座席奉  
行勤

(正精)

- 一 同年三月五日廣橋前大納言殿上野へ參詣二付固又被仰  
付
- 一 同年三月廿四日御奏者番被仰付
- 一 同年十月朔日在所へ之御暇同十三日出立十一月五日在  
着十二月朔日御礼
- 一 文化二丑年七月十二日西丸大手御門番堀田大藏少輔代  
り被仰付
- 一 同年八月廿四日西丸大手御門番着二付御免
- 一 文化三寅年五月六日寺社奉行加役被仰付同十五日御礼
- 一 同四卯年二月六日御拳之御料理戴
- 一 同五辰年九月七日就病氣兩御役御免之義願同九日寺社  
奉行ハ御免御奏者番ハ其俣可勤旨被仰付
- 一 同年十月七日月次願同十一月十一日步行願同十二月十  
一日出勤同十五日病後之御礼
- 一 同年十二月廿八日在所へ之御暇拜領物有之
- 一 文化六巳年正月廿六日出立二月廿八日在着三月十三日  
右御礼六月朔日帰府同十一日右御礼

(正倫)

- 但参府之節願之上木曾路旅行ス
- 一 同七年正月十三日来十七日紅葉山御鏡餅御用松平壹岐守代り被仰付
- 一 同年六月廿一日在所へ之御暇同七月十八日就病氣養生致度届書牧野備前守へ差出同八月十三日今以不相勝二付当十月迄滞府願青山下野守へ以能万甚四郎出ス同十四日願濟
- 一 同年九月廿八日寺社奉行加役被仰付十月十五日御礼
- 一 同年十月九日備中守卜改
- 一 文化七年十二月二日来二月孝恭院様三拾三回御忌御法事御用被仰付
- 一 同八年辛未年二月廿九日右御用濟時服拜領ス
- 一 同九年申年四月十八日備中守松平和泉守忌ニ而御用も差支二付明十九日登城候様尤月額いたし出候様松平伊豆守一名之奉書到来切判也
- 一 文化十一年二月廿一日母病氣二付丸山へ止宿致度段伺出即夕勝手次第申濟同日看病願も出ス

(正精)

- 一 同戊辰年四月十四日来年四月日光山ニて権現様式百回御忌御法会勅会万部御執行有之候付右御用被仰付
- 一 文化十二年二月十九日当四月日光山を帰府之節岩付浄国寺へ立寄申度段伺書御用番牧野備前守(江方)差出候処翌日勝手次第申御礼濟
- 一 同年三月廿四日日光へ之御暇拜領物有之同廿八日出立四月廿四日右御用相濟日光を帰府同廿八日帰府之御目見
- 一 同年五月廿八日加役方御定書掛り被仰付
- 一 文化十三年丙子年三月十一日当夏御転任御兼任之時覽箱之役被仰付尤不快二付不致登城候故同役内藤豊前守へ被仰付右二付御礼廻勤阿部大学勤ル
- 一 同年三月十七日右御用痔疾二付難相勤依テ御断書御用掛り松平伊豆守へ差出ス
- 一 文化十四丁丑年八月廿五日老中加判之列被仰付同月廿六日西丸下牧野備前守屋敷家作共拜領是迄小川町屋敷家作共差上九月朔日御役義御礼申上九月十五日伏見殿

(正倫)

- 之姫宮御方御下向并保之丞様御婚姻御用取扱被仰付九月十八日西丸下屋敷へ引移九月廿三日小川丁屋敷牧野備前守へ引渡九月廿八日小川丁永御預り地引渡
- 一 同年十二月十五日叙四品同月廿一日御礼
- 一 文化十五寅年正月廿八日於御城四品之位記口宣頂戴ス
- 一 同年二月十九日於御座間任侍従同廿八日御礼申上
- 一 同年三月廿五日於御城侍従之口宣宣旨入忝箱掛緒御免状入其箱御用番青山下野守相渡之頂戴ス
- 一 文政元寅年七月廿四日当九月浚明院様三十三回御忌御用掛被仰付
- 一 同年九月十二日右御用掛無滯相勤候二付於御座間御目見蒙上意時服七拜領之被仰付
- 一 文政五年正月十一日御転任之節御裾之役被蒙仰三月朔日無滯御勤
- 一 同年三月十六日御転任御任挽為御祝義御時服御拝領同月廿一日從御台様御簾中様も御拝領之もの有之
- 一 同年五月三日御不快二付公方様方御尋上意有之御礼御

(正精)

- 廻勤御名代長門守様御勤同六日内府様より同断是又長門守様御勤也同廿五日内府様よりも御尋有之公方様方二度目六月四日内府様より二度目御尋有之御廻勤御名代阿部兵庫様御勤之
- 一 同年七月廿四日御快方二付御出勤
- 一 文政六癸未年二月廿四日御不快二付公方様より御尋上意有之御廻勤御名代長門守様御勤同廿六日内府様より御尋上意有之御廻勤御名代阿部山城守様御勤也
- 一 同三月十二日二度目御尋有之御廻勤御名代長門守様御勤同月六日二度目内府様より御尋有之御名代阿部兵庫様御勤之
- 一 四月六日三度目御尋有之御礼御名代阿部山城守様御勤
- 一 四月廿八日追々御快方二付為御試丸山へ御越御歩行被成度段御願書出羽守様江御指出之処即夕御願之通済ス
- 一 五月二日三度目内府様より御尋有之御名代阿部兵庫様御勤之
- 一 同年五月十八日御役御免之御願書御用番様江土井大炊

(正倫)

頭様御先手細井出雲守様を以御進達即夕依御達翌十九日右御兩人様御登城被成候処願之通尤二者被思召候得共快方二有之由二候間其俣養生致候様二与被仰出之

一 同年六月廿二日稻葉对馬守様御死去御甥之御続二付御定式御忌服御受被成候旨御用番様江御届出ル即日御用番和泉守様方御奉書を以御忌御免被成候間明廿三日方御登城被成候様被御越候付御同人様江計為御礼御直勤可被成処御不快中二付為御名代長門守様被成御勤候

一 同年七月八日御病氣未暍而不被成御座候旨再応御役御免御願被成度旨御向列座方江御内談被成置候処御内談之趣無急度被入御座候処今暫養生加候様二との御沙汰之旨七月十五日於御城土岐山城守様江下野守様御達被成候右二付為御礼兩御用番様江計御廻勤有之旨為御名代山城守様御勤被成候

一 同年八月廿三日丸山江御越御步行被成度段御願書出羽守様江被差出即夕御願之通被仰出同月廿八日御出勤御病後之御目見被仰上公方様内府様江干鯛一箱充被献

(正精)

一 同年九月朔日方御症積御足痛二而御引逆同十六日御月代願出ル即刻可為勝手次第二付御用番加賀守様二而御差図相濟

一 同年十月十一日御願之通御役御免十一月十八日西丸下御屋敷御用二付被差上小川丁御屋敷御拝領同月廿二日丸山江御引移同廿二日西丸下御引渡

一 同年十二月七日御鷹之雁御拝領御名代阿部駿河守様御勤之

一 文政七甲申年正月十九日小川丁御屋敷江御引移

一 同年六月廿二日大手方御防酒井左衛門尉様御代被蒙仰

一 文政八乙酉年八月八日御用召之処御病中二付為御名代

井上河内守御登城被成候処来年日光山御参詣二付若殿様江御暇申可被下御参詣相濟候迄之内備後福山御在城可被成旨被仰付仍御礼御廻勤御名代ハ阿部大学様へ御頼被成候事

一 文政九丙戌年六月廿日御卒去表向ハ七月五日也

一 同年十月十五日初而御在所江之御暇被仰出從兩御丸被

成御拝領同十九日御在所へ御発駕

謙徳院殿滿譽清高良節大居士

西福寺

妻土屋能登守篤直女 歟

寛政九丁巳年九月廿九日死同十一月七日ヨリ晦日ノ日取

二ナル

清雲院殿湛<sup>(覺脱)</sup>普念蓮地<sup>(池)</sup>大姉

西福寺

后妻

松平左京太夫頼謙女 隆

天保十四卯年二月六日死

桂林院殿隆譽皎月徳明大姉

西福寺

女子 初智恵 利恵 松平和泉守乗寛妻

母同定

一 安永四未年六月十五日於福山生

一 同年十二月九日利恵卜改

(正倫)

(正精)

一 安永十丑年正月廿九日出府届出ス同四月六日着府

一 天明二寅年十二月廿七日縁組相濟

一 寛政六寅年四月廿二日婚姻整

一 文化九申年四月九日卒<sup>(七)</sup>

圓照院殿眞譽貞揉如月大姉

愛宕下

天徳寺

女子 嘉代 稲葉長門守正備妻

母同正精

一 安永六酉年七月十一日生

一 天明二寅年十月廿八日縁組願濟

一 寛政七卯年四月廿三日婚姻整

一 文化十四丁丑年十月廿二日築地中屋敷江引移

一 文政十二己丑年七月廿一日卒

瑤光院殿貞操智順大姉

駒込

養源寺

(正倫)

某 重之助早世 妾腹

一 安永九庚子年十二月十日生同日妻養ナル

一 同年十二月廿日死

幻法院殿暁風殘月善童子

西福寺

女子 島 青山大藏少輔幸孝妻

一 天明元辛丑年十一月十六日生

一 天明五年三月十一日縁組願濟

一 寛政八辰年二月十三日婚姻整

一 享和三癸亥年八月廿二日死

○文化三年八月廿一日二成ル

隆祥院殿瑞誉映月貞鏡大姉

青山

梅窓院

女子 悦 酒井大内記忠求妻

実鞠負正依女

実母牧野内膳正女

(正精)

一 明和六己丑年十二月十五日生

一 寛政八丙辰年六月廿三日死

○文化九年六月廿二日二ナル

蓮池院殿華香涼薫大姉

牛込

寶泉寺

女子 元 后結 三浦備後守毘次妻離別  
后板倉伊予守妻

一 天明五乙巳年四月十三日生妾腹

一 寛政二戌年二月十八日縁組願書出ス三月廿八日願濟

一 同十一未年十一月十九日婚姻整

一 文化五辰年八月九日結卜改

一 同六巳年七月三浦家離別 文化七年十二月五日縁組  
願書出ス十二月十四日願濟

一 同八辛未年二月十八日伊予守へ婚姻整

一 文政九丙戌年六月十一日卒 天保三辰年五月廿八日  
六月五日二口取替

瑤臺院殿心鏡明照大姉

渋谷

(正倫)

女子 齋 早世

吸江寺

母家女

一 天明六丙午年十二月九日生直町野平助へ預置

一 寛政九丁巳年正月廿日死十二才

真寥院殿寂窓智幻大童女

西福寺

正直

滝五郎 兵部 土岐山城守頼潤

母家女 為土岐山城守頼布婿養子

一 天明八戊申年五月廿八日生

一 寛政四子年五月廿一日丈夫届

一 同七卯年七月四日正直卜命

一 文化元子年三月十六日前髪執

一 同十酉年正月十五日兵部卜改

一 同年三月十九日婿養子願濟同月二十九日養家へ引移

一 文化十酉年五月十五日初而奉見家齊公

一 同年七月八日家督領三万五千石居城上州沼田帝鑑之

(正精)

間席同月廿八日御礼

一 同年八月十五日初而在所へ之御暇九月十三日出立

閏十一月廿三日参勤十二月十五日御礼

同年十二月十六日叙従五位下任山城守

一 同十一戌年八月十日来年四月於日光山権現様二百会

御法会勅会万部御執行二付日光勤番被仰付

一 同年八月十五日在所へ之御暇九月十一日出立同十一

月廿七日参勤十二月十五日御礼

一 文化十二亥年三月十五日日光表へ之御暇同月廿六日

出立

一 文化十二亥年十二月十日有馬玄蕃頭叔母妻二再縁組

願濟

一 文化十三子年二月廿六日婚姻整同三月十五日右御礼

申上

一 文化十五寅年二月二日当秋大坂加番被仰付同七月朔

日御暇被仰出拝領物有之候事同月十六日大坂表へ出

立七月廿八日着坂八月三日御城入

(正倫)

- 一 文政六癸未年五月廿九日御奏者番被仰付ル
- 一 文政九丙戌年九月廿二日御卒去
- 獻良院殿玉鉉宗鼎大居士

江戸品川東海寺地中

春雨庵

(正直)

一 某 都之丞 妾腹

- 一 文化八未年閏二月廿三日生
- 一 同年三月廿五日山岡治左衛門為養子

一 女子 安 后事 妾腹

- 一 文化十四年十一月十七日高木救平均へ為養育預
- 一 文化十二乙亥年十一月十五日御小性組八木丹波守組阿部伊織方へ養女ニ差遣ス
- 一 文化十三子年六月廿二日事卜改名
- 一 文化十二乙亥年十二月五日於事様御事伊織様之奥方様ニ御出生被成候段御届被差出候
- 一 嘉永五子年十月十三日卒

貞正院殿

池上 本門寺

(正精)

一 女子 本腹 鉉<sup>シ</sup>

文化十四丁丑年三月廿九日出生

文政十三庚寅年十一月廿八日山城守様方御結納被進

退日御婚姻御整

一 鉉五郎 母有馬玄蕃頭叔母

文政元寅十一月十二日生同十八日七夜

同年十二月十九日卒 品川東海寺地中春雨庵へ葬号

梅岳院殿

一 鉉治郎

母家女

一 文政四辛巳年三月七日出生

一 同五壬午年十二月三日卒号

大道紹隆童子

一 女子 本腹 於縁

一 文政四辛巳年十二月廿日生

一 同五壬午年閏正月九日卒

華顔宗授

(正倫)

- 女子 達 土井伊予守利謙妻
- 一 寛政元己酉年四月六日生
  - 一 文化三寅年十一月三日縁組願書出又同十二月十四日願濟

- 一 同七丙申年五月十五日改名
- 一 同十亥年七月廿八日初而御目見
- 一 同年八月十五日月次初而登城

(正精)

- 某 熊五郎
- 一 寛政十戊午年正月十九日生
  - 一 享和三癸亥年七月八日死
- 了鑑院殿智光曜嚴大童子

- 某 妾腹
- 一 寛政八辰年十二月廿日生即死
- 了幻院殿法岸遊地大童子
- 法林院

西福寺

(正直)

- 女子 妾腹 於鐵テッ 文政六癸未年四月二日生  
 同六月廿五日卒  
 嚴陵

某 本腹

- 一 文政六癸未年五月廿九日生六月四日卒号語雲

八弥 妾腹

- 一 文政七甲申年十二月十七日生届有之

幸吉 妾腹 英之助

- 一 文政十丁亥年五月十五日生

- 一 天保二辛卯年七月廿日養子願濟

女子 晴 妾腹

- 一 寛政六甲寅年十二月廿四日生

- 一 享和元辛酉年三月廿四日死

但享和二戌年三月十九日方廿三日ニナル

慧教院殿觀光了智大童女

浅草誓願寺

- 一 文化八未年十月八日死

心操院殿明誉智光慧照大姉

(正精)

正粹

運之助

西福寺

- 一 寛政七卯年九月四日生
- 母土屋能登守篤直女
- 妻松浦壱岐守清女
- 一 寛政八辰年四月九日正粹卜命持鎗遣
- 一 同九巳年五月六日宮参
- 一 享和二巳年<sup>(戊)</sup>十二月十四日縁組願濟
- 一 文化三寅年正月十八日瘡瘡同廿九日酒湯
- 一 同年二月十五日床上祝
- 一 文化六巳年六月廿三日住居出来引移
- 一 文化六巳年十一月十九日半髮袖留
- 一 同八未年十二月三日十七才依成御目見暫見合届出又
- 一 同九申年十二月三日右同断届出
- 一 同十酉年十二月三日右同断届出
- 一 同十一戌年十二月三日右同断届出

一 同十二亥年六月廿五日小川丁居屋敷手狭二付届之上今

日丸山下屋敷へ引移

一 同年十二月三日御目見暫見合届出又

一 文化十三年十二月三日右同断届出

一 同十四丑年十二月三日右同断届出備中守持出二而達又

一 文政四巳年十月御病氣二付御退身

一 同五年三月九日石原御屋敷御住居被遊度御内願之通

御聞濟有之十二月十五日石原へ御引移之

一 天保七丙申年正月晦日卒

容徳院殿恭譽克讓思道大居士

西福寺

一 某 早世 母土屋能登守篤直女

寛政九巳年閏七月六日生即死

真性院殿仁岳智英大童子

西福寺

一 女子 紀 阿部鍊丸正権妻

一 文化二丑年二月十七日於福山生

(正精)

- 一 同四卯年三月十三日妻養ニナル四月廿八日祝
  - 一 同年四月十九日出府
  - 一 文化八未年六月廿三日縁組願七月十七日済
  - 一 同年十一月十五日紐解
  - 一 文化十一戌年四月十五日小川丁へ引移
  - 一 同十三子年六月廿三日水痘七月四日酒湯奥切祝
  - 一 文化十四丑年十一月十五日鉄漿初祝
  - 一 同十五寅年二月三日疱瘡同十三日酒湯
  - 一 文政四己年御離縁御届出ル
  - 一 同六癸未年十二月十二日戸田鉉之進忠温様江御縁組御願之通被仰付忠温様ハ享和四子年正月十六日御誕生御妾腹ニ而御母ハ浄観院殿与申候
  - 一 同七甲申年十二月二十一日御婚礼
  - 一 天保三壬辰年六月九日死実八日
- 松貞院殿一芳良幹大姉

牛込

松源寺

一 女子

瑛 后孝

井上龜丸正春妻  
後松平主殿頭忠侯へ嫁ス

母家女

- 一 文化三寅年十一月廿日生
- 一 同四卯年三月十一日妻養ニナル四月廿八日祝
- 一 同五辰年閏六月廿三日髪置
- 一 同六巳年十月十九日小川丁へ引移
- 一 同九申年十一月十五日紐解
- 一 同十二亥年六月三日縁組願出ス七月廿一日済
- 一 同十三子年七月九日水痘同廿三日酒湯奥切祝
- 一 同十五寅年正月十七日疱瘡同廿六日酒湯
- 一 文政元寅年十一月十五日鉄漿初祝
- 一 同八乙酉年九月十九日御婚姻御整
- 一 同十二己丑年七月十八日御離縁
- 一 天保六乙未年二月廿八日御改名
- 一 同年十二月十八日再縁組願書出ス同月廿九日願済
- 一 同七年十二月九日婚姻整
- 一 同十一四月廿五日主殿頭於在所死去

(正精)

女子

母家女

文化五辰年七月六日生届有同月十二日死

淨眞院殿泰岳了薰大童女

法林院

某

寛三郎 正寧 字君成

母家女

一 文化六巳年十月廿四日生

一 同年十一月三日山岡治左衛門へ頼置

一 同七年年十月廿三日丈夫届出

一 同八未年四月朔日妻養ニナル同三日祝

一 同年十二月十一日奥へ引移

一 同年十二月廿九日痲瘡酒湯

一 同十酉年十一月十五日袴着祝

一 同十三子年六月九日水痘同廿三日酒湯御祝

(正粹)

一 同年七月廿三日住居出来引移

一 文化十四丁丑年十一月十五日肌帯初祝

一 文政元寅年十一月十五日正寧卜命

一 同四巳年十一月十三日御嫡子願同年十二月朔日初而

御目見

一 文政七甲申年三月十六日御袖留

一 同年四月朔日月次初而御登城御同道大久保近江守様

御頼也

一 同年十二月十六日御叙爵対馬守卜改

一 文政八乙酉年二月廿三日松平肥前守齊直様御娘於珠

様御縁組被成度御願出三月廿六日御願濟

一 文政九丙戌年八月廿四日御遺領無御相違被仰雁之間

詰被蒙仰同九月十五日御家督候様ニ被仰上

一 同年九月十八日御在所江之御暇御順年ニ付御願書大

久保加賀守様江被<sup>(指方)</sup>出同廿一日御奉書御到来之処御

風氣ニ而御登城不被成

一 同年十月十五日初而御在所江之御暇被仰出同十九日

(正精)

- 御当地御発駕十一月十五日御在着十二月十日御大札被差出御礼御献上もの者翌十一日有之
- 一 文政十丁亥年為御參勤四月廿八日御発駕五月廿二日御着
- 一 同年六月廿八日大手御門番奥平大膳太夫様御代り被蒙仰候
- 一 同年九月十五日かみ屋敷御(殿方)と出火御遠慮被口候同年十一月三日御婚礼同月十五日御礼
- 一 文政十一子年二月廿二日上野御固被仰付
- 一 同年四月九日上野江公家衆參詣二付御固被仰付
- 一 同年四月廿三日桜田跡御防被仰付
- 一 同年七月朔日御病後之御礼
- 一 同年七月廿八日御在所江之御暇被仰出同八月五日御当地御発駕同廿九日御着城九月廿八日御在着之御礼被仰上
- 一 同年八月晦日御奉書を以靄岡八幡宮并諸堂社御修復二付右御用被蒙仰候御相役小笠原大膳太夫様立花左

(正寧)

(正粹)

- 近將監様京極長門守様龜井大隅守様
- 一 文政十二丑年四月十八日早御參府御願出ル
- 一 同年六月朔日靄岡御修復御用相濟候付被為召御名代戸田因幡守様御登城御時服十五御拜領
- 一 同年同月十一日為御參勤御着
- 一 同年同月廿三日右御用取扱候而家来八人江拜領物有之
- 一 同年同月十五日御參勤御礼
- 一 文政十三寅年正月十一日紅葉山御鏡餅御用被仰付候
- 一 同年三月五日伊予守様与御改名
- 一 同年六月十三日御在所江之御暇
- 一 同年十月十六日御発駕
- 一 天保二卯年正月十六日早御參府御願出ル同十八日御願濟
- 一 同年二月六日為御參府御発駕同月廿五日御着府
- 一 同年八月十七日御奏者番
- 一 同年十一月廿日大手御門番阿部飛驒守様御代之

(正精)

- 一 天保三辰年六月廿九日当年御人少二付御暇被下間敷旨於新番所前溜大久保加賀守様以御書付被仰渡
- 一 天保四巳年六月十四日大手御門番御免
- 一 天保四巳年十一月十六日胸白之鴨一番脇坂中務大輔殿御取扱物献上
- 一 天保五年六月十三日在所江之御暇拜領物有之
- 一 同年七月十一日無拋用向有之出立延引届出ル
- 一 同年八月十一日病氣二付十月中迄滞府願書出ル同十二日願濟
- 一 同年十月廿三日猶又来春中迄滞府願書出ル同廿六日願濟
- 一 天保六未年三月十一日猶又御參勤之御時節迄御滞府御伺出又同十三日御願濟
- 一 天保六未年六月十一日參勤之御礼以使者献上物濟候
- 一 天保七丙申年六月七日就病氣退役願書御用番水野越前守殿二同役土岐山城守二水野壱岐守書添進達
- 一 同年同月八日老中連名之奉書水野越前守殿方到来翌

(正寧)

(正粹)

- 九日為名代水野壱岐守登城候処願之通御役御免雁之間席被仰付候旨於芙蓉之間老中列座越前守殿被仰渡但老若衆二恐多名代阿部主殿様ハ阿部恵三郎也
- 一 同年十一月八日弟主計義養子致度願之通被仰候
- 一 同年十二月廿五日願之通隱居被仰候家督之事無相違被下置候
- 一 天保八年七月朔日丸山仮住居江引移
- 一 同十四卯年十二月廿四日本住居普請出来二付引移
- 一 弘化三年正月十五日小石川辺方出火之処住居向不殘類焼十一月廿二日普請出来二付引移
- 一 嘉永二酉年十二月御四十二才御厄年之御祈祷御頼有之
- 一 安政三辰年六月二日剃髮名改不爭齋

女子 豊

母家女

- 一 天保八酉年十一月十二日出生公辺御届同十八日出又
- 一 同十年亥六月三日御養之御格合二相成候

(正精)

- 母家女
- 一 天保十亥十二月十七日出生公辺御届有之
  - 一 同十一子年十月廿五日方々様御養之格合ニ御取扱可被遊旨被仰出
  - 一 同十二月三日御髮置御祝義御整被成候
  - 一 同十四十二月十五日御袴着御祝儀有之
  - 一 同十五辰年正月廿三日御丈夫届出ス
- 此年弘化二改

(正寧)

- 某 賢之助 (朱書) 為正弘養子故系末ニ出ス
- 一 同十一月十五日御髮置御祝有之
  - 一 同十四卯年十二月十五日御紐解御祝有之
  - 一 嘉永二酉年十二月朔日御鉄漿初
  - 一 嘉永四亥年十月廿七日阿部播磨守様江御縁組御願書出同十一月廿四日御願濟
  - 一 嘉永五子年閏二月廿三日御結納四月廿九日御引移御婚姻御整
  - 一 安政五年六月朔日袖留祝儀整

(正粹)

- 某 鏞三 ヨラ
- 母家女
- 一 弘化四未年十一月廿二日御肌帶始御整被遊 (年脱)
  - 一 嘉永二十二月朔日從正寧様御実名被進正教 ノリ
  - 一 嘉永六丑年十一月十八日袖留
  - 一 安政三辰年六月二日前髮執
- 女子 賀 タカ
- 母家女
- 一 天保十二丑年正月廿二日出生
  - 一 天保十四卯年六月朔日御養之御格合ニ相成候
  - 一 同十二月十五日御髮置御祝有之
  - 一 弘化四十 (年脱) 一月廿二日御紐解御祝有之
  - 一 嘉永五子年二月九日疱瘡
  - 一 嘉永五子年二月廿三日卒
- 業雲院殿華岳浄好大童女
- 浅草
- 西福寺

(正精)

- 一 天保十三寅年五月十七日出生
- 一 天保十四卯年九月廿日卒葬式之節養之格  
寶船院殿蓮岸淨育大童子

西福寺

女子 鉏

母家女

(正寧)

- 一 天保十四卯年十月廿一日出生
- 一 弘化二年八月十五日御養之御格合ニ相成候
- 一 同年十一月廿八日御髮置御祝有之
- 一 嘉永二酉年十二月朔日御紐解
- 一 嘉永五子年正月朔日疱瘡二月十五日酒湯
- 一 安政三辰年十一月十五日鉄漿初
- 一 慶応元丑年四月二日卒

西福寺

女子 鉏

母家女

貞信院殿智光明心大姉

(正粹)

- 一 弘化四未年十二月廿六日出生
- 一 嘉永二年四月廿三日方々様御養之格合取扱候様被仰  
出候

同年十二月朔日御髮置御祝義

一 嘉永五子年二月廿日疱瘡二月朔日酒湯

一 嘉永六丑年十一月十八日紐解祝儀整

一 安政六未年十月二日卒

淨界院殿應聲即現大童女

浅草

西福寺

某 錦次郎

(朱書) 為正教相統故系未へ出ス

母家女

一 嘉永元申年八月廿一日出生

一 同五子年九月十五日御養ひ御格合ニ被仰出候

一 同年十一月廿八日御袴着御祝義

一 安政三辰年十一月十五日肌帯初

一 同五午年二月廿五日丈夫届出ル

女子 照

(正精)

(正寧)

母家女

- 一 嘉永四亥年正月十八日公辺御届無之
- 一 嘉永六丑年九月廿四日卒葬式養之格

柔順院殿孝和良意大童女

浅草

西福寺

「女子 清 后操

母家女

- 一 安政二乙卯年九月十九日出生
- 一 同四丁巳年五月廿五日養之格合二成ル
- 一 同五年年二月廿八日髮置祝
- 一 同五年年六月五日卒葬式養之格

酪鹿樹院殿夏峯凉音大童女

浅草

西福寺

悌三郎

母家女

(正粹)

一 文化八未年十月廿九日生届有

一 同年十一月七日死

良仙院殿覺幻慧性善童子

法林院

「某 主税

母家女

一 文化十三子年閏八月七日生届有同月十一日為養育閏半

左衛門へ預置

(十三九)

一 同年十一月十二日死

浄性院殿心光覺岸大童子

法林院

「某

剛藏 正弘後主計 伊勢守

母家女

一 文政二卯年十月十六日生届有之

一 同三辰年二月廿五日御養子成ル

一 同四巳年七月廿六日新御殿へ御引移

一 文政八乙酉年十二月廿二日方御痲瘡同廿二日御酒湯

(正精)

之祝義

- 一 文政十丁亥年十一月朔日御肌帶始御祝義濟
- 一 天保四巳年十一月十五日半髮袖留祝義整
- 一 天保五甲申年七月朔日西御殿方山岡郁之丞元屋敷新御住居江御引移被遊候
- 一 同日御実名御持鎗被遣候
- 一 天保六乙未年十一月廿八日御前髮被為執候
- 一 同七丙申年十月廿八日主計与被進
- 一 同十一月八日為兄伊予守正寧養子
- 一 同年十二月朔日初而御目見
- 一 同年同月六日五節月次御礼登城可仕旨願濟同十五日初而登城
- 一 同年十二月十六日叙爵被仰付同廿二日御礼申上
- 一 同年同月廿五日家督無相違被下置雁之間詰被仰候同廿八日御礼申上
- 一 天保八年正月十三日御暇被下度願書出
- 一 同年同月十五日初而在所江之御暇被届出二月五日出

(正弘)

(正粹)

- 立同年四月朔日在着御礼以使者献上物仕候
- 一 同年二月廿三日官位之口宣横瀬駿河守於宅名代阿部駿河守を以頂戴之
- 一 同年四月三日參勤時節伺使者出又六月二日着府
- 一 同八年七月五日松平越前守齊善養方叔母於謹縁組願書出同年九月廿九日願濟
- 一 同九年二月廿三日婚姻整同年三月十五日御礼
- 一 同年九月朔日御奏者番被仰付
- 一 同十年三月廿五日今度西丸炎上二付上納金仕度内願書出又同廿八日御願之通金貳万兩上納被仰付
- 一 同年十二月六日右上納金二付御刀一腰御拵付於御前
- 一 拝領天保十一年三月廿二日家来拝領物有之
- 一 同十一年五月十九日寺社奉行見習被仰付候
- 一 同年十一月八日御本役
- 一 同十二辛丑年二月朔日於東叡山大御所様御新葬御用掛被為蒙仰
- 一 同年同月十九日右御法事二付日々上野江御供被成候

(正精)

付御目見之上被為蒙上意候同廿七日於上野上使之勤  
被為蒙上意候

一 同年三月廿九日文恭院様御葬送御法事御用相勤候付  
時服七拜領廣大院様方御附法事御用相勤候付同五拜  
領之

一 同年八月十三日乘馬上覽罷成無滯相濟蒙上意御申候

一 同年同月十八日於吹上公事裁許上聽二付登城無滯相  
濟骨折之段蒙上意

一 同年十二月廿七日上野新御廟向御普請并御靈屋御建  
繼御修復御用相勤二付時服五拜領之

一 同十三壬寅年六月四日駿州久能山御宮其外地震二而  
御損之箇所之御修復二付正遷宮之節彼地江可被差遣  
候間可致用意旨被仰出候同十七日彼地江御暇被仰出  
蒙上意御時服五羽織拜領之同廿三日当地出立同廿九  
日正遷宮相濟七月五日帰府同八日久能帰候御目見首  
尾好申上

一 天保十四癸卯年四月六日依奉書致登城候処御目見之

(正弘)

(正粹)

上日光御留守中可入念勤且御法令之趣可相守旨蒙上  
意候

一 同年閏九月十一日加判之列被仰付同十五日御礼申上  
一 同年十二月十五日被叙四品同廿二日御礼申上

一 同年十二月廿日於御前增上寺文昭院様御靈屋御廟向  
其外惣御修復御用掛り被仰付

一 天保十五辰年三月廿日実生之松御拜領

一 同年五月廿七日土井大炊頭様御不快中御本丸御普請  
惣御奉行被仰付

一 同年六月十三日被任侍從七月朔日御礼

一 同年同月同日御本丸御普請惣御奉行被仰付

一 同年同月十八日御紋付晒御帷子御拜領

一 同年七月廿二日御勝手御用掛以來堀大和守様御兩人  
江被仰付厚申談相勤候様被仰付

一 同年八月十八日公方様一位様御本丸江御移徙御用御  
取扱被仰付

一 同年九月廿九日増上寺文昭院様御靈屋御廟向其外惣

(正精)

- 御修復御用御勤候付御時服七御拝領
- 一 同年十月廿六日一位様御病中之御用御取扱被仰付
- 一 同年十一月廿五日此度御本丸御炎上二付御同列様方若御年寄様方御側衆様御上納金御用続二付尚又御道具成とも献上被成度御内願之処再忘之義御聽届被遊御道具献上与被仰出
- 一 同年十二月廿日今度廣大院様御法事御用助御勤二付純子七卷御拝領且又別段被 召出御病中御用御取扱二付被為蒙上意御手自御伽羅御拝領
- 一 同年十二月廿二日廣大院様御遺物十二ヶ月和歌御手鑑御服紗包御文庫之物御文物御拝領
- 一 同年十二月廿五日於御座之間御本丸御普請御用御精入御骨折御勤御喜悅被思召段々被為蒙上意候上御手自御刀 備前国家助  
代金五十枚 備前国家助代金五十枚御拝領
- 一 弘化二乙巳年正月廿日朝鮮国御用御心得御取扱并朝鮮人来聘御用掛被為蒙仰候
- 一 同年同月廿五日於御座之間右大将様御簾中様二丸二

(正弘)

(正粹)

- 御逗留之御用向被成候御儀八御上意之上八丈織十反御拝領
- 一 同年二月廿八日御本丸御移徙二付以思召三所物御拝領
- 一 同年二月廿九日御本丸御移徙御用御勤二付時服十御拝領
- 一 同年四月廿九日以思召御筆画御拝領
- 一 同年五月四日御本丸御表向御普請御用格別御出情御骨折御勤二付御手自御刀御拝領重而御懇之被蒙上意御差之御刀御脇差虎皮御鞍覆御紋附御鞍鐙御召御鞍置馬御拝領且常之御精勤其上御普請御用格別御骨折二付向後乗物打揚腰綱代爪折傘為持可申旨蒙上意自分馬共二匹為率平日共無遠慮可相用旨被仰出
- 一 同年五月廿九日以思召帝鑑之間座被仰付
- 一 同年七月十八日水泳上覽畢而浜御庭江御成御詰被仰付種々御饗応御下御料理絹地指物二御拝領之
- 一 同年八月廿四日当十月浄観院様七回御忌御取越御法

(正精)

- 一 事御用懸被蒙仰十月廿六日時服七御拝領
- 一 同年十一月十日増上寺廣大院様尊前江石御燈籠二基御献備
- 一 弘化三年三月二日浜御庭御成御詰被仰付種々御饗
- 一 応御脇鷹并鈞被仰付
- 一 同年三月廿三日遠馬被仰付武州小金井辺江御越
- 一 同年閏五月八日清水中納言様御事紀伊大納言様江御養子御用懸被蒙仰七月九日右御用御勤二付時服十別段菖蒲革御拝領
- 一 同年十一月四日於御座之間日光御門跡御附弟等之儀最初ヨリ早々入込候処厚御取扱御下向迄相決格別御骨折二付御有合之御品可被下旨蒙上意御手自御壺軸拝領之
- 一 同年十一月十二日廣大院様御法事御用助御勤二付八丈織十反御拝領
- 一 同年十一月廿二日御拳之鴨御拝領
- 一 同年十二月廿日來二月最樹院様二十一回御忌御法事

(正弘)

(正粹)

- 一 御用懸被蒙仰翌未年二月廿二日御勤二付時服七御領
- 一 同年十二月廿五日学問所其外別々御普請御用御取扱二付時服十御拝領
- 一 弘化四未年五月四日高田留江御成御供被蒙仰尾張様外山御屋敷江も御供二而被為入種々御饗応御鉢植陶器類御頂戴有之
- 一 同年五月廿八日孝恭院様御遺物三幅対御懸物御頂戴
- 一 同年六月廿七日大川筋江御成御供被蒙仰田安様箱崎御屋敷江も被為成種々御饗応有之
- 一 同年七月五日精姫君様有馬中務大輔様江御引移御用懸被蒙仰候
- 一 同年八月廿八日天地丸其外御船拝見被蒙仰大川通魚獵有之
- 一 同年十月十八日龜有筋江御成御供於御場御脇鷹被仰付羽翁之鴨二御頂戴有之其外御饗応有之
- 一 同年十一月十一日小金御鹿狩御用御取扱被蒙仰
- 一 嘉永元申年二月廿三日松平内蔵頭様御居屋敷出火御

(正精)

## 上屋御類焼

- 一 同年二月廿五日御居屋敷御類焼可為難義勤柄之義二付以思召金壹万両御拝借被仰付御返納之儀者拾ヶ年御上納二被仰付同日大名小路酒井若狭守様御居屋敷暫之内御引渡御仮住居二相成三月朔日御引移九月御居屋敷御普請御出来御引移
- 一 同年二月廿五日御小納戸頭取以上使御類焼御尋之被蒙上意
- 一 同年同月廿六日御類焼二付公方様方時服十從右大將様方絹縮緬十反御拝領之御簾中様方以奉文紅白羽二重拾疋御頂戴之
- 一 同年三月廿一日六ツ刻姫君様より以奉文御類焼二付為御尋羽二重五疋充御頂戴
- 一 同年三月廿九日海岸防御固筋之義御用多御勤被成二付時服十御拝領別段御応之以上意御手自梨子地御鞍鏡御拝領同断二付御入用筋之義彼是御骨折二付御手自御三所物御拝領

(正弘)

(正粹)

- 一 同年四月十三日於御上屋敷螺貝壹入稽古丸山於御屋敷員鐘太鼓壹入稽古之義以御付札御伺之通相濟
- 一 同年八月十一日御領分銀札遣之義猶又来戌年十五御願書被差出御付札濟
- 一 同年八月廿日天親院様為御遺物三十六歌仙御手鑑御頂戴
- 一 同年八月廿八日当春以来御月番繁之御勤其外御用多御取扱被成二付唐純子十卷御拝領
- 一 同年十一月廿八日成烈院様御贈官位御院号勅号被仰出御法会御用御勤二付時服七御拝領
- 一 同年十二月四日御拳之鴨御拝領
- 一 同年十二月八日孝恭院様御贈官位御法会御用御取扱被成二付時服七別段最初より御取扱被成二付御手自御三所物御拝領
- 一 同年十二月十日大坂御城御普請御用御勤被成二付御手自御刀一御拝領
- 一 同年十二月廿七日御用多之処御出精御勤二付御満足

(正精)

- 一 思召候段御懇之上意御手自御印籠御拝領
- 一 嘉永二酉年正月十一日一條様御妹寿明君様御下向御用御取扱被蒙仰候
- 一 同年三月十七日小金御鹿狩御成為御先詰被為入候付六半時式寸前御出宅二而御登城成被遊候
- 一 於御場先御召之御陣羽織御拝領
- 一 同年三月廿三日小金御鹿狩御用最初方彼是御心配御取扱別而御骨折被遊候付自御手御鑑御拝領被遊候
- 一 同年八月朔日於御城御鷹之雲雀御拝領
- 一 同年九月十日於一御座之間日光御宮其外御修復惣御奉行被蒙仰候
- 一 同年十月五日寿明君様方於御城御文庫之内御拝領被遊
- 一 同年十月十一日於御座間寿明君様御下向御用御骨折御勤被遊候付御時服十御拝領
- 一 同年十月十五日右大將様御婚礼御用御勤可被成旨被蒙仰

(正弘)

(正粹)

- 一 同年十一月九日右大將様御結納無御滯被為濟候付八丈織十反御拝領
- 一 同年十一月廿三日右大將様御婚礼御用御勤二付御刀御拝領從右大將様茂御時服御拝領且西丸江御使御勤二付右大將様方卷物五御簾中様方卷物五御拝領
- 一 同年十一月廿五日御婚礼後初而右大將様御簾中様御本丸江御入二付御時服五御拝領
- 一 同年十二月九日右大將様御婚礼御用御勤二付御平日御重宝之御品之内御料紙御硯箱御拝領被遊
- 一 同年十二月十一日精姫君様御婚礼被為濟初而御登城為御祝儀精姫君様方縮緬五卷御拝領
- 一 同年十二月十六日御鷹之雁御拝領
- 一 同年同日当年御用多之処御出情御勤被遊候付御側二被差置候御手筥笥御拝領
- 一 同年同月廿二日精姫君様御婚礼御引移御用御取扱被遊候二付御時服十御拝領
- 一 同年二月十五日右大將様御水祝之御式御勤二付御着

(嘉永三)

(正精)

- 御頂戴并御召服御紋附嘉珍無地御熨斗目御小袖同黒縮緬御小袖同花色小紋御上下御拝領従右大将様御盃台御肴御頂戴
- 一 同年三月十八日精姫君様為御年始御登城御文庫之内御拝受
- 一 同年三月廿八日御勝手向御入用品々御用多之処御心配御勤御満足被思召此度日光御宮御修復御用向二而日光江御越二付御紋附御鞍覆御拝領
- 一 同年四月十六日光山江之御暇被仰出御召之御羽織一右大将様方も御羽織二御拝領
- 一 嘉永三戌年四月十九日光御宮御修復外遷宮二付彼地江御発駕五月三日御帰府翌日御帰府被遊御目見
- 一 同年五月廿九日光御靈屋向所々御取繕并妙道院御普請御骨折二付八丈嶋十反御拝領
- 一 同年同月同日来月有徳院様御法事之節御参詣之時御裾之役被蒙仰六月廿日御勤被遊
- 一 同年六月六日大川筋江御成之御供御肴御頂戴

(正弘)

(正粹)

- 一 同年六月八日上野常憲院様有徳院様孝恭院様御靈屋向御取繕有徳院様御廟向其外御修復御用御勤二付純子五卷御拝領
- 一 同年八月十七日澄心院様御遺物三幅対別段御召物御拝領
- 一 同年八月廿二日御鷹ノ雲雀御拝領
- 一 同年八月廿三日線姫君様御養女被仰出為御祝儀以奉文縮緬五卷御拝受
- 一 同年同月同日高田四ツ家町井伊掃部頭様御抱屋敷以御相对御讓受有之
- 一 同年同月廿八日線姫君様御養女被仰出候御用御取扱二付八丈織御拝領
- 一 同年九月十日廣大院様御法事惣奉行被蒙仰十一月六日増上寺江御詰先若年寄遠藤但馬守様被蒙上意
- 一 同年十一月十二日廣大院様御法事惣奉行御勤二付御時服七御拝領
- 一 同年十一月廿一日御妾腹二御女子様御誕生御産穢引

- 即日御免
- 一 同年十二月五日來年日光江御越二付御類燒節之御拝  
借金年延被仰出
- 一 同年十二月廿日當年茂御用多之処御出情御勤二付自  
御手御召古シ之御葺盆御拝領
- 一 同年十二月廿三日御鷹之雁御不快二付御名代御同列  
松平伊賀守様を以御拝領
- 一 同年十二月廿七日歲歲<sup>(尊)</sup>之御時服御拝領
- 一 嘉永四亥年四月朔日日光御宮正遷宮二付御暇被仰出  
御加羅御拝領從右大將様縞縮緬五反御拝領
- 一 同年同月六日日光江御越二付以思召御用被遊候御矢  
建御根付御拝領
- 一 同年同月六日日光江御越二付以思召
- 一 同年同月八日日光江御登駕同廿一日御帰府翌日御目  
見
- 一 同年同月廿八日日光御宮御修復御用御勤二付御刀并  
別段御直垂地三段御拝領

(正弘)

(正粹)

- 一 同年七月十八日大川筋御成御供漁獵之魚御頂戴
- 一 同年八月廿七日御鷹ノ雲雀御拝領
- 一 同年八月廿九日傳通院様御宮殿御新調御靈牌殿本堂  
向御建直御修復御用御勤二付純子五卷御拝領
- 一 同年十一月五日御拳ノ鴨御拝領
- 一 同年十一月廿二日線姫君様御結納被為受候為御祝儀  
從御同所様御書御拝受
- 一 同年十一月廿四日當年日光江御越二付先達而之御拝  
借金年延被仰出
- 一 同年十二月三日常々御用多之処御出情御勤二付御差  
料ノ御小サ刀御伝來之御茶器御拝借
- 一 同年十二月十一日小松川筋御成御供靄ノ皿并鷹御拝  
領
- 一 同年十二月十六日御鷹之雁御拝領
- 一 同年十二月廿七日歲暮之御時服御拝領
- 一 嘉永五子年正月四日於鎮様御卒去御遠慮引之処即日  
御免

(正精)

- 一 同年二月廿三日於賀様御卒去御忌引以御奉書御尋蒙上意翌日御免
- 一 同年閏二月十一日御妾腹二御女子様御出生御産穢引翌日御免
- 一 同年五月廿五日西丸御普請惣奉行蒙仰
- 一 同年六月廿八日大筒鑄立御用御骨折御勤被遊候付御時服十御拝領
- 一 同年八月五日御鷹之雲雀御拝領
- 一 同年八月十四日妻死去実十三日  
法号 寛恭院殿眞譽如實貞相大姉
- 一 同年八月十六日御前様御卒去二付以上使蒙上意右大將様方茂以御奉書蒙上意同十七日忌御免
- 一 同年十月八日成烈院様御宮殿御新調御靈屋向其外御造営御用御取扱二付八丈織十端御拝領
- 一 同年十月十六日於松様御卒去御遠慮翌日御免
- 一 同年十月廿八日右大將様二丸江御逗留之御用御取扱二付八丈織十反御拝領

(正弘)

(正粹)

- 一 同年十一月十五日右大將様西丸江御移徙之御用御取扱蒙仰
- 一 同年十二月五日御類焼之節一万両之御拝借金二付当年初而千両上納
- 一 同年十二月十三日御用多之処御出情御勤二付御柄鮫二御大小鰐御拝領
- 一 同年十二月廿一日右大將様御移徙二付御三所物并鯛一折御拝領
- 一 同年十二月廿二日西丸御普請御用御勤二付從西御丸御刀一腰宛并西丸二御移徙之御用御勤付從兩御丸御時服十宛御拝領
- 一 同年同月同日線姫君様御婚礼後初而御登城二付縮緬御拝受
- 一 同年同月廿五日西丸御普請御用向格別御精入万端御骨折御勤速二御成功相成御満足被遊御忘之上意之上從兩御丸御刀一腰宛別段御勝手向御取扱多年御精勤近来別而御用多之処厚々御心を御用ひ格別御骨折御

- 満足被遊今度西丸御普請二付而も何角御心配御骨折  
被遊候付一万石御加増被遊御拝領候同廿八日御礼被  
仰上
- 一 同年同月廿七日歳暮之御時服御拝領
- 一 嘉永六丑年正月十九日御鷹之雁拝領
- 一 同年二月十八日松平越前守養女謚実松平日向守女再  
縁組願書出候三月廿五日願濟
- 一 同年二月廿八日以思召御鷹之羈拝領
- 一 同年七月廿二日御代替御用御本丸西丸御殿向御取締  
并両御丸任人勤方等調御用被仰付
- 一 同年九月六日慎徳院様御在世中御下ケ之御印籠以思  
召御内之拝領
- 一 同年九月十二日慎徳院様御遺物御置物御卓拝領
- 一 同年九月十五日將軍宣下之御用被仰付勤是迄之通被  
仰付
- 一 同年十月廿三日御代替御用相勤御刀拝領
- 一 同年十一月九日縁女松平越前守養女江結納祝儀整

(正弘)

(正粹)

- 一 同年十一月十五日縁女引取婚姻整十二月十五日右御  
礼申上
- 一 同十二月七日將軍宣下之御用向骨折勤御刀拝領別段  
時服十拝領
- 一 同月廿七日歳暮之御時服拝領
- 一 同月晦日当夏以来別而繁之相勤二付銀象眼御鏡別段  
当夏以来殊二御用多万端格別心配相勤二付自御手御  
脇差拝領
- 一 同七寅年閏七月廿八日御鷹之雲雀拝領
- 一 同年十一月廿四日御台場御普請御用精入相勤候付自  
御手御刀拝領
- 一 同年十一月廿八日御鷹之雁拝領
- 一 同年十二月廿七日歳暮之御時服拝領
- 一 安政二卯年二月朔日今日退出茂早メ二付堀之内辺江  
以御沙汰乗切
- 一 同年二月九日御台場為見分遠乗
- 一 同年同月十一日御台場江被為成候付御供被仰付

(正精)

- 一 同年同月廿五日小金原江馬取為見分罷越同所之馬拝領之
- 一 同年同月廿六日右同所江為見分罷越
- 一 同年同月晦日鳳皇丸御新調之大船為見分罷越
- 一 同年同月五日今度御代替二付領知之御判物頂戴之
- 一 同年三月十六日鼠山追鳥狩夫方志村辺江遠乘
- 一 同年同月廿一日鎌倉江遠馬
- 一 同年五月四日内海御台場御普請并大筒鑄立之御用格別精入骨折相勤候付時服十拜領并家臣前田藤九郎大筒鑄立之御用手伝相勤候二付時服二銀式拾枚被下置之
- 一 同年同月十日於御座間当七月慎徳院様三回御忌御法事惣奉行被仰付
- 一 同年同月十四日退出方松平肥後守松平薩摩守台場見分夫方船為見分罷越
- 一 同年同月廿八日備中国領分七百石余同国之内二而御引替被下旨牧野備前守以書付申達之

(正弘)

(正粹)

- 一 同年七月二日妾腹之男子男健死去遠慮引翌日遠慮御免
- 一 同年同月十三日浜御庭於海手大筒船打其外水泳稽古為見分罷越
- 一 同年同月廿三日慎徳院様御法事惣奉行相勤候二付時服七拜領之
- 一 同年八月四日浜御庭御成御供被仰付
- 一 同年九月廿九日神奈川江遠乘夫方船二而大船見分
- 一 同年十月朔日此度本壽院様御格合被仰出候御用何角骨折取扱候二付時服十拜領之
- 一 同年同月二日今夜亥中刻大地震二而住居向不殘潰依而即刻登城夫より丸山中屋敷江当分之内住居之旨届
- 一 同年同月同日中奥召仕之哥山事病氣之処養生不相叶今夜亥之中刻死去之処出生茂有之候二付三日遠慮届差出又翌日遠慮御免被遊候間只今より登城可仕旨奉書到来
- 一 同年同月六日居屋敷地震二而潰候二付勤柄之儀可為

(正精)

- 難儀者以思召金壹万兩拜借被仰付并時服十拜領之
- 一 同年同月十九日本壽院様御格合被仰出候御用取扱候付御同所様方以奉文紅白縮緬五卷拜受之
- 一 同年十一月十三日於御城御紋附黒羽二重御小袖地同御継上下拜領之
- 一 同年十二月四日於御座間今度禁裏御所方御造宮御用無御滯御出来相成御満足被遊最初方心ヲ尽申付万端骨折候旨御懇之蒙上意御手自御刀拜領之
- 一 同年同月廿七日於御座間常々御用多之処出精御勝手向之義二付而者格別心配不一方骨折相勤其上禁裏御造宮茂無御滯相濟被遊御満足猶幾久敷可相勤旨蒙上意御召料之御馬拜領之
- 一 同三辰年二月十九日海防之儀二付蒙上意阿蘭陀船持渡之鉄砲三拾挺拜領之
- 一 同年四月十三日講武所江御成夫方浜御庭被為成候付御供被仰付
- 一 同年五月三日講武所御創建御用相勤候二付蒙上意時

(正弘)

(正粹)

- 服十拜領之
- 一 同年八月二日朝鮮人対州迄来聘御用掛被仰付
- 一 同年十一月六日講武所御創建方万端心ヲ用ひ追々稽古盛二相成被遊御満足旨蒙上意御鞍鐙拜領之
- 一 同年同月十五日御婚礼御用相勤旨被仰付
- 一 同年十二月十三日御結納御用取扱候付御召下御熨斗目一御白一御上下一具拜領之
- 一 同年同月十九日御婚礼御用掛相勤候付上意之上時服十拜領之同日御婚礼御内祝被為濟候付卷物十拜領之
- 一 同年同月廿一日御婚礼首尾好被為濟被遊御満足右御用相勤候付御懇之蒙上意御手自二幅対御掛物拜領之
- 一 同年同月廿四日大砲製造御用相勤候付蒙上意純子十卷拜領之
- 一 同年同月廿五日家来前田藤九郎大砲製造御用手伝相勤候付銀子七枚拜領之
- 一 同年同月廿七日近来御用多其上箱館蝦夷地御開筋御用取扱候付御三所物別段箱館蝦夷地御開筋御用向格

(正精)

別精入取扱候付御刀拝領之

一 同四巳年正月十九日講武所江御成二付御供被仰付

一 同年二月廿七日以思召御鷹之鶴拝領之

一 同年六月廿一日病氣二付為御尋思召二而以□□中務

少輔上使御塗重一組鮮鯛一折拝領之同日妾服男子相

果候付養方弟賢之助正教養子仕度旨願書差出候処翌

廿二日願之通被仰付

一 同年同月廿五日被為召病氣二付名代内藤紀伊守致登

城候処駿州久能御宮向地震損并三州大樹寺御靈殿其

外焼失跡御修復御用取扱候二付時服十拝領之同日病

氣二付御役御免之願書差出候処御免不被遊心永養生

可仕旨被仰出

一 同年同月廿七日病氣二付以田澤兵庫頭上使御尋之蒙

上意味噌漬小鯛一捲抱拝領之同日卒三拾九才

良徳院殿高譽信義節道大居士

浅草

西福寺

(正弘)

(正粹)

妻松平越前守治好女謹

一 嘉永四亥年八月十三日卒

寛恭院殿真譽如実貞相大姉

浅草

西福寺

后妻松平越前守慶永養女謚

実松平日向守直春女

寿号

清心院殿浄譽松月明鏡大姉

女子 鈿 久世隠岐守廣周室

母家女

一 文政四辛卯年正月廿二日出生届有

一 同年七月十九日御養成同廿六日右御祝儀同日新御殿

江御引移

一 文政九戌年正月十七日ヨリ疱瘡

一 文政十亥年十一月朔日御紐解御祝義

一 天保四巳年六月三日久世謙吉様江縁組御願書出ル

(正弘)

七月三日願濟

一 同年十一月朔日御鉄漿初御祝義

一 天保六未年二月廿三日婚姻整

一 弘化四年十一月廿八日御袖留

女子 淑 姜腹

一 天保十亥年十二月十日出生届無之

一 同十二丑年三月十四日卒、寅十三日之葬式養ノ格

清光院殿華月知彰大童女

浅草

西福寺

某 篤之助

母家女

一 天保十三寅年十一月四日出生届無之

一 同十四卯年六月朔日御養成、同十五日右御祝儀

一 同十五辰年正月廿八日丈夫届出ル

一 同年四月廿二日卒

瑞雲院殿靈峯玉仙大童子

(正粹)

西福寺

某 哲次郎

母家女

一 天保十五辰年二月十六日出生届有之

一 同年六月九日卒

夏月院殿清風涼音大童子

法林寺

女子 為 后栄

母家女

一 弘化二巳年正月廿六日出生届出ル

一 同四未年二月廿三日養成ル

一 同年十一月十一日御髮置御祝儀

一 嘉永四亥年四月三日疱瘡、同十八日酒湯同廿三日祝儀

一 同年十一月十五日紐解祝義整

一 安政三丙辰年九月廿八日松平大蔵大輔利聲江縁組願書

差出同十一月十六日願濟

一 同四巳年十二月十一日不熟二付不嫁而離縁届出ス

(正弘)

- 一 同五年二月廿八日鉄漿初悦
  - 一 同六年三月九日名栄卜改
  - 一 文久二戌年十一月廿六卒
- 玉壽院殿華臺蓮容大姉

女子 勝

母家女

- 一 弘化四未年十一月廿五日出生届出ル
- 一 嘉永元申年四月廿三日養成ル
- 一 同年八月廿八日御髮置御祝義
- 一 嘉永五子年二月十五日庖瘡閏二月十五日酒湯
- 一 同六丑年十一月朔日紐解祝儀整
- 一 安政六未年十一月十五日鉄漿初祝儀整
- 一 文久二戌年六月五日戸田越前守忠恕江縁組願書出七月十二日願濟

- 一 同年八月廿七日未嫁而卒十六歳
- 秋月院殿淨光明満大姉

浅草

(正粹)

女子 鎮

母家女

- 一 嘉永元申年十月廿二日出生届出ル
  - 一 同二酉年十月十五日於奥館御髮置御祝義有之
  - 一 同五子年正月三日卒六日江御日取替葬式養ノ格
- 英春院殿梅窓貞薰大童女

某 鋼蔵

母家女

- 一 嘉永元申年十二月十二日出生届有之
  - 一 同二年九月三日卒実二日也 葬式養ノ格
- 瓔珞院殿瑩光浄輝大童子

浅草

女子 基

母家女

西福寺

西福寺

(正弘)

- 一 嘉永二酉年十月廿六日出生届有之
  - 一 同四亥年四月廿六日卒葬式養ノ格
- 玲瓏院殿玉臺蓮容大童女

浅草

西福寺

女子 久

母家女

- 一 嘉永三戌年十一月廿一日出生届出ル
- 一 同四亥年十一月十五日御髪置御祝義於奥館有之
- 一 安政二卯年六月九日養ニ成ル
- 一 安政三辰年十一月十五日紐解祝儀整
- 一 同五午年正月廿八日疱瘡、二月十一日酒湯

女子 松

母家女

- 一 嘉永五子年閏二月十日出生届出ル
  - 一 同年十月十六日卒葬式養ノ格
- 智玉院殿天光如幻大童女

(正粹)

某

男健ヲタケ

母家女

- 一 嘉永七寅年正月四日出生届出ル
  - 一 安政二卯年七月二日卒葬式養ひ之格
- 好相院殿池岸清泉大童子

浅草

西福寺

正教

賢之介 伊予守  
正弘為養子

- 一 安政四巳年六月廿七日養父正弘病死二付同月廿九日  
以若年寄本庄安芸守上使御香奠白銀三百兩自御台様
- 一 同年八月十三日亡父伊勢守遺領無相違被下置帝鑑之  
間席被仰付

- 一 同年同月十七日辰之口屋敷御用二付家作共可差上昌平橋内酒井若狭守屋敷家作共被下旨被仰渡之
- 一 同年九月朔日家督之御礼申上
- 一 同年十二月十六日諸太夫被仰付名改伊予守同月廿日官位之御礼申上
- 一 同年同月廿四日大手橋御門番酒井雅樂頭代り被仰付
- 一 同五年正月十五日養父御役中旭丸其外越中嶋調練場御取立等之御用相勤候付御喜色之御事二候旨蒙御沙汰
- 一 同年六月廿一日初而在所江之御暇被仰出七月十八日癸駕
- 一 同年十一月廿三日溝口主膳正娘縁組願差出十二月廿五日願之通被仰付
- 一 同六年六月五日為參勤着府同十一日御礼申上
- 一 同年十月十七日御本丸炎上二付消防人数差出候処御使番松平友三郎ヲ以被仰渡忌中二付人数召連坂下御門外江相詰候処酒井右京斎依差函一番手三番手人数

(正教)

(正粹)

- 一 而已御城内江繰入御宝蔵燒失跡火消防致シ人数引取
- 一 同年十一月七日大手御門番阿部播磨守代り被仰付之
- 一 同年十二月朔日御本丸御普請二付領分之晷表献上仕度旨内願之趣達御聴内願之通献納被仰付
- 一 同年同月四日婚姻相整同十五日御礼申上
- 一 万延元年閏三月五日御代替二付領知之御判物頂戴之
- 一 同年同月廿二日御本丸炎上之節早速人数召連罷出右之者共格別出精殊二下火鎮方之儀も骨折候段上意之趣被仰渡之
- 一 同年六月廿五日在所江之御暇被仰出八月五日癸駕
- 一 同年十一月廿一日英吉利人宿寺高輪東禪寺并同所統上洞庵江警古人数可差出旨被仰渡之
- 一 文久元酉年正月十三日英吉利人宿寺警古被成御免旨被仰渡之
- 一 同年五月廿五日為參勤着府
- 一 同年六月五日病氣二付養方叔父錦次郎正方相統願書

差出

一 同年同月六日卒二拾三歳、実五月廿七日卒

恭徳院殿温譽覺了法性大居士

浅草

西福寺

(正教)

妻溝口主膳正直溥女光

一 文久元酉年十月三日未夕年若二付主膳正方江引取置

追而再縁為致度主膳正申聞候二付差遣度旨願書差出

同十三日願之通被仰付之

一 同年十二月廿三日松平伊豆守信古江再嫁

正方

錦次郎 主計頭  
為正教相統

(ママ)

実不爭齋正寧四男出生方家相統迄之処前二出ス

一 文久元酉年六月十七日依甥正教願家相統被仰付領知無  
相違被下置候

一 同年八月十五日相統之御礼申上

一 同年同月廿五日和宮様御下向之節桶川宿方板橋宿迄土

(正粹)

井大炊頭申合固人数可差出旨被仰渡依之御下向之節右

場所江固人数差出

一 同年十二月十六日諸大夫被仰付名改主計頭

一 同年同月廿五日官位之御礼申上

一 同年同月廿六日和宮様御下向之節御道固行届家来共二

も骨折之段御沙汰之趣被仰渡之

一 同二戌年正月廿九日以御使番松平弼三郎上使初而御鷹

之鷹拝領之

一 同年二月十六日大手御門番大久保加賀守代り被仰付之

一 同年七月廿一日麻疹八月三日酒湯

某

庸五郎 後只五郎

母家女

一 文政二卯年七月九日出生

一 同三辰年八月五日卒

明静院殿鏡月知空大童子

法林院

女子 鏡

母家女

- 一 文政五年八月十四日出生
- 一 文政七年閏八月十四日卒

蓮正院殿湛空無染大童女

法林院

女子 舒 后較

- 一 文政七年六月廿二日出生
- 一 天保七年四月朔日桂林院様御住居江御引移

一 同八酉年六月九日上方様通御取扱二相成ル

一 同十亥年十一月四日較下改

一 同年十二月十八日松平伊豆守嫡子隼人正江縁組願出ル

同月廿八日願濟

一 同十四卯年四月三日婚姻七月十二日卒

桂叢院殿月林妙香大姉

野火止

平林寺

某 義三郎 後阿部誠一郎為養子

一 文政十二年十月廿四日出生

一 天保七年三月廿六日御上屋敷江引移

一 同八酉年六月廿七日御二男様通り御取扱被仰出

一 同年六月廿八日丸山御屋敷殿様元御住居江御引移

一 同年同月廿九日上方様通り御取扱被仰出

一 嘉永元年十月十五日御同姓阿部誠一郎様江御養子被遣旨御届出ル

遣旨御届出ル

一 同年十一月晦日養子被仰付遺領被下雁之間詰被仰付十

二月十八日御礼

一 同年十二月廿八日叙爵被仰付播磨守与改翌年正月七日

御礼申上

一 同二酉年正月十五日初而在所江御暇拜領物有之二月十

二日出立

一 同年五月廿七日着府六月十一日御礼申上

一 同年六月十四日大手御門番被仰付

一 同年十二月廿七日御鷹之馬初而拜領

一 同三戌年三月十九日真田信濃守孫女妻縁組願濟翌年八

月三日死去

(正粹)

一 同年十一月廿四日於豊様再縁組願濟

一 同年四月廿九日引移婚姻整

一 同四亥年六月十三日御奏者番被仰付七月朔日御礼

一 同五子年在所江御暇拜領物有之九月廿八日出立

一 同六丑年三月廿四日西丸御普請二付内願之通上納金獻

一 同年七月廿七日為參勤着府六月廿八日御礼

一 同七寅六月廿三日在所江御暇拜領物有之八月四日在所

江出立

一 安政二卯年五月廿七日為參勤着府六月廿三日御礼

一 同三辰年四月八日早御暇願出又同十五日在所江之御暇

被仰出同廿七日在所江出立

一 同四巳年閏五月廿七日為參勤着府

一 同五午年六月廿二日在所江之御暇被仰出同廿七日在所

江出立

一 同六未年五月廿八日為參勤着府六月十二日御礼

一 同年十一月八日大手御門番御免被仰付

一 同七申年六月廿五日在所江之御暇被仰出、同廿八日在所

所江出立

一 万延元申年八月廿八日為參勤着府、九月十五日御礼

一 文久二戌年六月廿一日在所江之御暇被仰出、同廿四日

在所■出立

文化十四丁丑年十一月五日今般御役義被蒙仰二付御役人性

名等須原屋茂兵衛羅(罷力)出相同二付御役人性名等以書付申談御

系初メ之処如左申談則相改

是迄之処

是迄之処

阿部善右衛門

伊予守

藤原正勝

正次

如左改■

阿部正俊トシ

阿部善九郎

正宣ノ

甚五郎

正勝

幼名徳千代 伊予守

(挟み込み)

慶長五年四月七日

正勝公 六十

正保四年十一月十四日

正次公 七十九

慶安四年四月二十日

重次公 五十四

万治二年正月二十三日

定高公 二十五

正徳五年正月二十七日

正邦公 五十八

明和六年十月十日

正福公 七十

明和六年七月十二日

正右公 四十六

文化二年八月二十一日

正倫公 六十一

文政九年七月四日

正精公 五十三

明治三年七月朔日

正寧公 六十二

安政四年六月十七日

正弘公 三十九

文久元年六月六日

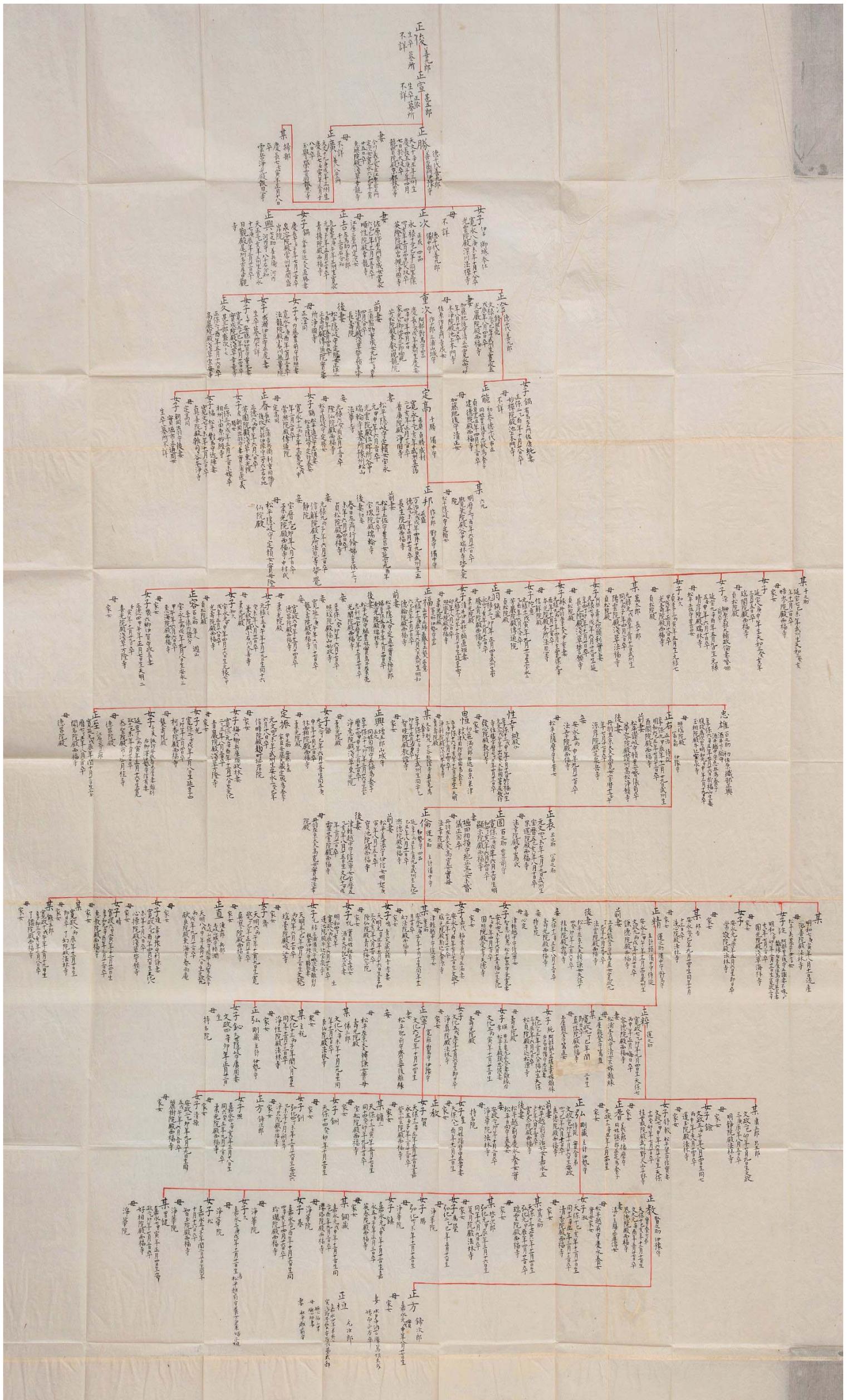
正教公 二十三

慶応

正方公 二十一才

文久二壬戌年

八月十日綴直之





# 東京阿部家資料 文書編(11)

発行日 二〇二二年(令和三年)三月三十日

編集

福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課  
歴史資料室

福山市霞町一丁目一〇番一号

〒七二〇・〇八一二

〒〇八四・九三二・七二六四

発行

福山市教育委員会

印刷・製本

株式会社かもめいと